海洋氣象台一覽

神戸海洋氣象台編

始

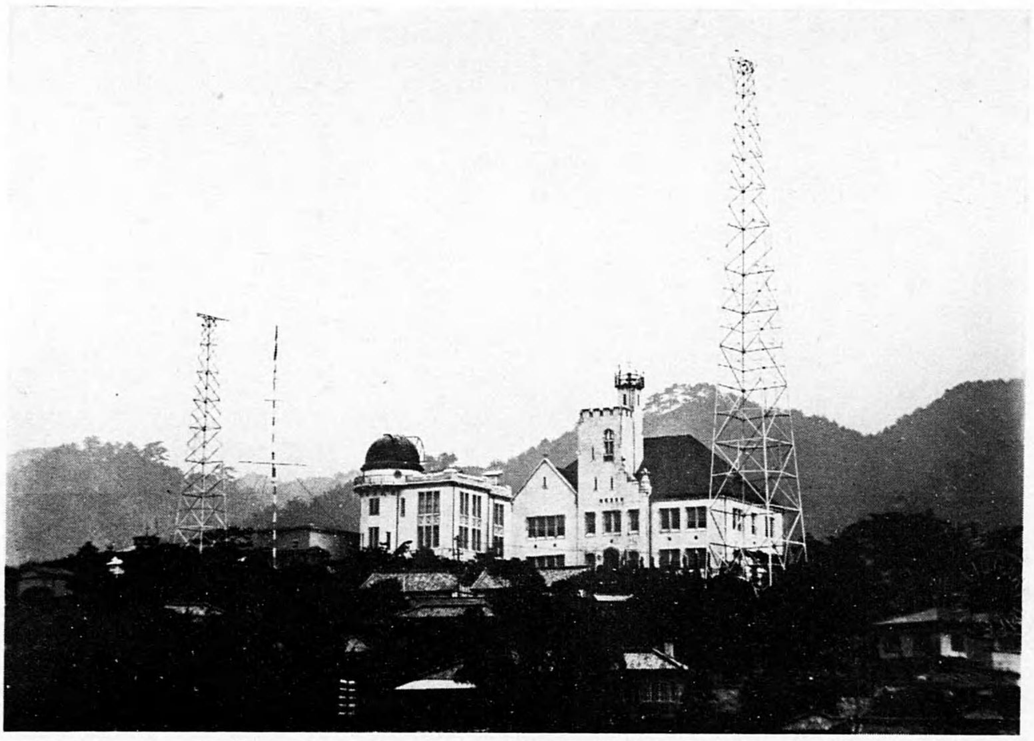
昭和八年十一月

海洋氣象臺一覽

海洋氣象臺

神戸

海洋氣象臺一覽



海洋氣象臺全景

海洋氣象臺一覽

（昭和八年）

目次

三、關係法令……六四

四、事業要項……六五

一、沿革略

本臺ハ大正八年時ノ文部次官田所美治氏、兵庫縣知事清野長太郎氏ノ斡旋ノ下ニ、神戸港ノ船舶業者ノ寄附ヲヨツテ建築セラレ、翌九年四月ニ竣工シ、八月ニ文部省所管ノ下ニ始メテ開設セラレタ。

一、其ノ後時ノ兵庫縣知事有吉忠一氏ノ盡力ノ下ニ、阪神ノ船舶關係者ノ寄附ヲ受ケテ無線電信所及其設備ガ設ケラレ、大正十一年十二月ヨリ無線電信ニヨツテ氣象報ヲ航行中ノ船舶ニ通知スル事ガ出來ル樣ニナツタ。

一、海洋氣象臺ノ開設後間モナク小規模ノ海洋觀測ガ始メラレタガ、昭和二年三月專屬ノ海洋觀測船「春風丸」ガ建設セラレテヨリ、本邦內ノ港灣及近海ノ海洋學的ノ調査及研究ヲ正規ニ始メル樣ニナツタ。

一、昭和四年六月七日　畏クモ
聖上陛下ハ海洋氣象臺ニ行幸被在、親シクコノ事業ヲミソナハセラレタ。

一、高松宮殿下ニハ大正十二年七月二十六日本臺ヲ御視察被遊。

一、東伏見宮大妃殿下ニハ昭和七年五月十七日本臺ヲ御視察被遊。

一、東久邇宮殿下ニハ昭和八年一月十七日本臺ヲ御視察被遊。

二、官制及細則

(一) 氣象臺官制

(大正九年八月二十六日勅令第二百九十四號)

改正、大正一〇年二五六號、一一年一四一號、四一二號、一二年九一號、一三年二一九號、一四年二五七號、一五年一七九號、昭和二年一七一號、三年二八五號、四年一二二號、五年一五〇號、六年一九六號、七年一九二號、八年二三五號。

第一條　氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象ニ關スル事項ヲ攻究シ氣象事業ヲ掌ル

第二條　東京ニ中央氣象臺、神戸ニ海洋氣象臺、茨城縣下ニ高層氣象臺ヲ置ク

第三條　中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌リ兼テ氣象事業ヲ統轄ス

一、全國氣象ノ調査及報告
二、全國ノ天氣豫報及暴風警報
三、全國地震調査
四、農業氣象ニ關スル調査及研究
五、航空氣象ノ觀測及調査並航空機ニ對スル天氣豫報及暴風警報
六、地磁氣及空中電氣ノ觀測及調査
七、津浪ノ調査及研究
八、一般氣象ニ關スル事項ノ研究

九、氣象器械及地震器械ノ研究調整檢定製作及修理
一〇、東京地方ノ天氣及地震ノ觀測
一一、東京地方ノ天氣豫報及暴風警報

第四條　海洋氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、海洋氣象及地球磁力ノ觀測及調査並之カ爲必要ナル天體現象及地動ノ觀測
二、海流潮汐其ノ他海洋ニ於ケル物理的諸現象ノ觀測及調査
三、天氣圖及磁氣偏角圖ノ發行
四、氣象器械及時辰儀時計羅針盤其ノ他ノ航海測器ノ研究調整及檢定
五、洋上船舶ニ對スル暴風雨警戒

第五條　高層氣象臺ハ高層氣象ノ觀測及調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長	專任	一人	奏任
事務官	專任	一人	奏任
技師	專任	二十五人	奏任 内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
書記	專任	十六人	判任
技手	專任	百十四人	判任

第七條　臺長ハ技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

臺長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ氣象臺ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第七條ノ二　事務官ハ中央氣象臺ニ屬シ臺長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第八條　技師ハ臺長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條　中央氣象臺ニ支臺附屬測候所及附屬地磁氣觀測所ニ所長ヲ置ク氣象臺技師又ハ氣象臺技ノ位置及名稱ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　支臺ニ支臺長ヲ、附屬測候所及附屬地磁氣觀測所長ハ中央氣象臺長ノ指揮監督ヲ承ケ支臺附手ヲ以テ之ニ充ツ技師ニアリテハ文部大臣之ヲ補シ技手ニアリテハ中央氣象臺長之ヲ命ス

支臺長、附屬測候所長又ハ附屬地磁氣觀測所長ハ中央氣象臺長ノ指揮監督ヲ承ケ支臺附屬測候所又ハ附屬地磁氣觀測所ノ事務ヲ掌ル

第十二條　附屬檢潮所ニ所長ヲ置ク氣象臺技手ノ中ヨリ海洋氣象臺長之ヲ命ス

附屬檢潮所長ハ海洋氣象臺長ノ指揮監督ヲ承ケ附屬檢潮所ノ事務ヲ掌ル

第十三條　中央氣象臺ニ附屬測候技術官養成所ヲ置キ測候技術官又ハ測候技術官タルヘキ者ニ必要ナル學藝技術ヲ授ク

測候技術官養成所ニ主事一人ヲ置ク氣象臺事務官又ハ氣象臺技師ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ中央氣象臺長監督ノ下ニ於テ測候技術官養成所ノ事務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中央氣象臺官制及大正七年勅令第三百三十六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ中央氣象臺ノ技師、技手又ハ書記ノ職ニアル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各氣象臺ノ技師、技手、又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ中央氣象臺技手ニシテ休職ノ者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ休職ノ儘氣象臺技手ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（參照）大正七年勅令第三百三十六號ハ氣象ニ關スル事務ニ從事セシムル爲中央氣象臺ニ臨時職員設置ノ件ナリ

（二）氣象臺長職務規程（大正九年十一月十六日文部省訓令號外）

第一條　臺長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條　臺長ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ囑託員ヲ置クコトヲ得

第三條　臺長事故アルトキハ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條　左ノ事項ハ臺長之ヲ專行スヘシ但シ第六號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一　職員ノ事務擔任ヲ定ムルコト

第二　規則ノ施行上必要ナル細則ヲ定ムルコト

第三　俸給月額八十五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四　技師以下ノ內國各地出張ニ關スルコト

第五　技師以下ノ除服出仕、請暇ニ關スルコト

第六　囑託員ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七　經費中ノ目ヲ流用スルコト

第五條　前條ニ揭ケタルモノノ外文部大臣ノ許可ヲ經テ後施行スヘシ

(三)　海洋氣象臺事務分課規程

（昭和四年二月八日改正　文部大臣許可指令）

第一條　海洋氣象臺ニ第一部第二部ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

第二條　第一部ニ於テ左ノ事務ヲ掌ル

一、海洋氣象ノ觀測

二、海洋氣象ノ調査報告

三、地球磁力ノ觀測

四、地球磁力ノ調査報告

五、天體現象ノ觀測及調査報告

六、地動ノ觀測及調査報告

七、潮汐ノ觀測及調査報告

八、海流其ノ他海洋ニ關スル物理的現象及之ニ關係アル諸現象ノ觀測

九、海流其他海洋ニ關スル物理的現象及之ニ關係アル事項ノ調査報告

一〇、天氣圖ノ發行

一一、磁氣偏角圖ノ發行

一二、無線電信ノ送受

一三、洋上船舶ニ對スル暴風警戒

第三條　第二部ニ於テ左ノ事務ヲ掌ル

一、氣象器械ノ研究及檢定並調整

二、航海測器ノ研究及檢定並調整

三、工作ニ關スルコト

四、觀測船ノ運用及管理ニ關スルコト
五、圖表ノ製作
六、圖書ノ整理ニ關スルコト
七、官吏ノ進退身分ニ關スルコト
八、公文書及圖書ノ接受及發送ニ關スルコト
九、經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト
一〇、國有財產及物品ニ關スルコト
一一、營繕ニ關スルコト
一二、他部ノ主管ニ屬セサルコト

(四) 海洋氣象臺事務分掌規程 (昭和四年二月八日改正 文部大臣許可指令)

第一條　第一部ニ海洋氣象掛、太平洋天氣圖掛、氣象觀測掛、地球磁力掛、磁力偏角圖掛、天測掛、地動掛、檢潮掛、海洋調査掛、海洋觀測掛、海洋化學及生物掛、氣象電報掛、無線電信掛ノ十三掛ヲ置キ部務ヲ分掌ス

海洋氣象掛

一、各船舶ノ氣象日誌ノ調査統計

二、海洋調査報告

太平洋天氣圖掛

一、太平洋天氣圖ノ製作及印刷

氣象觀測掛

一、神戸ニ於ケル氣象特別觀測
二、神戸ニ於ケル特別氣象ノ調査統計及報告
(上層氣流報告)

地球磁力掛

一、地球磁力ノ觀測
二、地球磁力ノ調査報告

磁力偏角圖掛

一、磁力偏角圖ノ製作

天測掛

一、太陽ノ寫眞撮影
二、時ノ觀測

地動掛

一、地動ノ觀測
二、地動ノ調査報告(地動報告)

檢潮掛

一、潮汐ノ觀測
二、檢潮所ニ關スル事務
三、潮汐ノ調査報告(潮汐觀測)

海洋調査掛

一、海洋觀測報告ノ調査
二、海洋調査報告(海洋時報)

海洋觀測掛

一、海洋ノ觀測及其調査

海洋化學及生物掛

一、海洋化學ノ觀測及調査
二、海洋生物ノ觀測及調査

氣象電報掛

一、氣象電報ノ送受

二、日刊天氣圖ノ製作及印刷
三、洋上船舶ニ對スル暴風警戒
四、暴風雨其他氣象現象ノ調査

無線電信掛

一、無線電信ノ送受

第二條　第二部ニ庶務掛、會計掛、圖書掛、器械掛、檢定掛、工作掛、製圖掛、觀測船掛ノ八掛ヲ置ク

庶務掛

一、臺員ノ進退及身分ニ關スルコト
二、官印及臺印ノ管守
三、文書ノ接受及發送
四、廳舍及構内ノ取締
五、國有財産ノ保管ニ關スルコト
六、他部掛ノ主管ニ屬セサルコト

會計掛

一、歲入歲出ノ豫算決算及收支ノ調理
二、營繕ニ關スルコト

三、帳簿ノ登錄
四、物品ノ出納保管

圖書掛

一、圖書ノ保管及出納
二、圖書目錄ノ整理

器械掛

一、氣象海洋航海ニ關スル器械ノ研究
二、購入器械ノ檢査
三、他部掛ニ屬セサル器械ノ管守

檢定掛

一、氣象器械ノ檢定及調整
二、海洋器械ノ檢定及調整
三、航海測器ノ檢定及調整

工作掛

一、氣象海洋航海其他ニ關スル器械ノ修理
二、氣象海洋航海其他ニ關スル器械ノ製作

製圖掛

一、圖表ノ製作
二、石版印刷工場ニ關スルコト

觀測船掛

一、觀測船春風丸ノ運用及管守

第三條　所屬器具器械及帳簿並公文書類ハ各其ノ所屬掛ニ於テ保管ス

第四條　掛ニ掛主任ヲ置キ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　掛主任ハ掛ノ事務ヲ掌理ス

第六條　掛員ハ掛ノ事務ニ服ス
但シ臺長ノ命アルトキハ他掛ノ事務ヲ助ク

(五)處務規程(大正九年九月)

第一章　職務權限

第一條　臺長差支アルトキハ緊急ノ事項ニ限リ順次上席技師其ノ事務ヲ代決ス代決事項ハ追テ臺長ノ閲覽ニ供スヘシ

第二條　別ニ定ムル委任事項ニ限リ技師之ヲ代決ス

第二章　處務順序

第三條　臺務ニ關スル事件ノ處理ハ回議用紙ニ處分案ヲ記載シ臺長ノ決裁ヲ乞ヒ發送文書ハ臺名若ハ臺長名ヲ以テスヘシ處分ヲ要セサルモノハ回覽ニ供スヘシ

第四條　本臺ニ到達セル文書ニシテ臺臺長及官職名宛ノモノハ庶務掛ニ於テ開緘ノ上其ノ要旨ヲ收受件名簿ニ登錄シ(但シ本臺ヨリノ照會ニ對スル回答ハ發送件名簿ニ登錄シ)文書ノ欄外ニ受付番號ヲ記入シ擔當主任ニ配付スヘシ又個人宛ノモノハ開封ヲ爲サズシテ各名宛人ニ其儘配付スヘシ

第五條　官職名ヲ有スル親展書ハ開封ヲ爲サスシテ受付(又ハ發送)月日及發信者受信者ノ名ヲ登錄ノ上當該官職者ニ配付スヘシ(又ハ發送スヘシ)

第六條　本臺宛ノ新聞ハ直ニ閲覽室ニ配列シ官報ハ關係事項ノ有無ヲ調査シ回覽ニ附スヘシ(關係事項ハ掛員ニ於テ集錄整理ヲナスヘシ)雜誌報告及寄贈圖書ハ件名簿ニ登錄シ受付番號ヲ附シ圖書掛ニ廻付スヘシ

第七條　擔當主任ハ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ件名簿ニ受領ノ捺印ヲナシ回答ヲ要スルモノハ速ニ案ヲ立テ臺長ノ決裁ヲ乞フヘシ回答ヲ要セサルモノハ其旨件名簿ニ記載スヘシ若シ掛員ヲシテ立案セシメシトキハ査閲ノ上臺長ノ決裁ヲ乞フヘシ凡ソ他掛ニ關聯スル事項又ハ關係ヲ及ホスヘキ事項ハ必ス關係アル掛ニ回議スルコトヲ要ス

第八條　緊急ノ事件ニシテ通常ノ手續ヲナス遑ナキトキハ便宜ノ方法ヲ以テ速ニ決裁ヲ乞ヒ處分後其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九條　決裁ヲ得シ文書ハ文書掛ニ於テ決裁ノ月日ヲ記入シ之ヲ淨書シ發送件名簿ニ登錄ノ上番號ヲ附シ發送ノ手續ヲナシ(回答ニ屬スルモノハ收受件名簿ニ登錄處理スヘシ)處理後原議ハ主任者ニ返付スヘシ
但シ發送ヲ要セサルモノ及主任者ニ於テ淨書スヘキモノ又ハ添付書類アルモノハ主任者ニ配付スヘシ

第十條　氣象電報ハ天氣圖掛ニ於テ直ニ處理シ前項ノ手續ヲ踏ムニ及ハス但發送電報ハ當番技師ノ決裁ヲ要ス

第十一條　事務用電報ハ文書ノ例ニ準ス

第十二條　退廳時限前文書掛ニ於テ收受シタル文書ハ即日各擔任者ニ配付シ退廳時限後ノ分ハ翌朝之ヲ配付スヘシ
但至急ヲ要スルモノハ時限ニ拘ハラス配付スヘシ

第十三條　退廳時限後若ハ休假日ニ當リ至急發送ヲ要スルモノアルトキハ當該掛員ニ於テ淨書シ宿直員ニ於テ發送ノ手續ヲナスヘシ

第十四條　文書ノ處理完結シタルトキハ完了年月日ヲ記シ當該掛ニ送付スヘシ當該掛ニ於テハ件

名簿ニ完了ノ旨ヲ記シ文書ハ別ニ定ムル規程ニ依リ之ヲ編纂保存スヘシ

第十五條　宿直ニ關スル規程圖書整理ニ關スル規程所屬器具器械整理及保管ニ關スル規程器械檢定ニ關スル規程天氣圖及暴風雨警戒ニ關スル規程備人取締ニ關スル規程其ノ他ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三章　服務心得

第十六條　職員登廳シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十七條　執務時間中一時外出セムトスルトキ若ハ病氣其ノ他已ムヲ得サル事故アリテ退廳セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ臺長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ出勤スルコト能ハサルトキハ登廳時限迄ニ其ノ事由ヲ屆出ヘシ疾病ノ爲缺勤一週間以上ニ渉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ屆出爾後二週間毎ニ同樣ノ手續ヲナスヘシ

第十九條　忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ續柄ヲ記シテ屆出ヘシ父母ノ祭日ニ當リ休暇セントスルトキハ其旨前日迄ニ屆出ヘシ

第二十條　私事ノ爲旅行セントスルモノハ其ノ事由期間及旅行先ヲ詳具シ許可ヲ受クヘシ

賜暇中旅行セントスルモノハ其ノ日數及旅行先ヲ記シ屆出ツヘシ

第二十一條　出張ノ命ヲ受ケタルトキハ出發屆及歸廳ノ上ハ速ニ歸廳屆ヲ差出スヘシ

第二十二條　出張中用務ノ都合ニ依リ又ハ疾病其他已ムヲ得サル事故ノ爲豫定日數ヲ超過スルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ承認ヲ受クルヲ要ス但疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十三條　出張中ノ事務ニ關シテハ歸廳後直ニ復命スヘシ

第二十四條　出張又ハ賜暇缺勤等ニ依リ不在トナルヘキ場合ハ豫メ自己擔任ノ事務ニ付擔當主任ノ指揮ヲ受クヘシ

但其手續ヲナス遑ナキトキハ此ノ限リニ非ス

第二十五條　陸海軍ノ召集ニ應スルトキ又ハ徵兵檢査ノ爲徵兵署ニ出頭スル場合ハ其旨直ニ屆出ヘシ

第二十六條　退廳後廳舍若ハ其附近ニ火災アリタルトキ又ハ大地震アリタルトキ其他非常ノ事變アルトキハ速ニ登廳シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十七條　職員ハ其ノ住所ヲ屆出ヘシ

第四章　附則

第二十八條　本規程ニ依リ難キ事情アルトキハ決裁ヲ經テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第二十九條　本規程ハ大正九年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(六) 構内取締規程 (大正九年九月)

第一條　廳舍及附屬屋舍(官舍ヲ除ク)ノ戸締リ時限ハ特ニ定ムル室ノ外左ノ通リトス

正面玄關　出勤時一時間前開ク　退廳時ト同時ニ閉

北側入口　同上　退廳時後一時間後閉

地下室北側出入口　同上　同上

西側出入口　宿直員起床ト同時ニ開ク就寝ノ際閉

各室出入口　出勤時前一時ニ開ク退廳時後三十分ニ閉

但シ特ニ必要ノ場合ハ係員ノ同意ヲ得テ隨時開閉スルコトヲ得

第二條　前條ノ開閉ハ係書記又ハ宿直員ノ命ヲ承ケ當番小使之ニ當ルヘシ

但シ緊急ノ場合若ハ小使差支アルトキハ此ノ限リニ非ス

出入口戸締ノ際ハ必ス窓ノ戸締ヲ點檢スヘシ

第三條　檢定室器械室陳列室倉庫工作室子午儀室羅針盤檢定室印刷室圖書室其他特ニ指定スル室ハ係員又ハ其ノ命ヲ受ケタルモノ隨時之ヲ開閉スヘシ

但シ緊急ノ場合ハ此限リニ非ス

第四條　各出入口ノ鍵ハ主任書記(退廳後ハ宿直員)之ヲ保管シ一組ヲ常用トシテ書記室ニ置キ他

ノ一組ヲ豫備トシテ收藏スヘシ

豫備鍵ハ特別ノ必要無キ限リ使用スヘカラス

鍵ハ鍵函ヨリ分離シテ搬出スヘカラス

第五條　受付ハ外來人アルトキ其姓名及用務ノ概要ヲ尋ネ當該職員又ハ係員ニ取次指揮ヲ待ツヘシ

外來者ヲ無斷構内ニ立入ラシムヘカラス

第六條　來着文書及物品ハ受付(又ハ當番小使)之ヲ受領シ直ニ書記(又ハ宿直員)ニ取次クヘシ

書留郵便其他受領印ヲ要スルモノハ書記又ハ宿直員之ニ捺印スヘシ

第七條　出入商人ハ西側入口ヨリ出入セシメ廳内ハ必ス靴又ハ草履ノ外入ラシムヘカラス

第八條　臺員ハ上靴又ハ上草履ヲ用フヘシ

第九條　廳内ノ掃除ハ特ニ係員ノ命スルモノ、外左ノ六種トス

一、並掃除(床上掃除、窓及廳具拂拭)毎日一回出勤時前又ハ退廳時後

二、洗拭(床上ヲ水ニテ拭フ)　廊下及便所ハ毎日一回隨時室内ハ土曜日午後及水曜日退廳時後

三、油塗布(リノリユームニ油ヲ塗布ス)毎土曜日午後

四、特別掃除　特ニ指定ノ日

五、廳外掃除　毎週一回以上(但必要ノ場合隨時行フコト)

六、金具手入　毎週一回以上隨時行フ

便所内諸裝置ハ毎日一回以上洗滌シ清潔ニナシ置クヘシ

第十條　電燈電力ノ引込口「スキッチ」ハ係員ノ許可ナクシテ手ヲ觸ルヘカラス

第十一條　電燈電力、水道、及瓦斯ハ成ルヘク節約ヲ旨トシ使用後閉栓ニ注意シ又係員ハ時々巡回漏出ノ有無ヲ點檢スヘシ

電燈ハ使用濟ノ上ハ消燈スヘシ

第十二條　電燈中夜間常點ノモノハ左ノ通リトシ他ハ必要ニ應シ隨時點滅スヘシ

一、各階廊下一個ヅツ

一、正面玄關外一燈

一、西側入口外一燈

一、屋根裏上リ口一燈

一、外燈全部

第十三條　煖房機關ハ煖房當番小使之ヲ取扱ヒ點滅ノ日時ハ別ニ之ヲ指定ス

第十四條　構内ニ於テハ土地建物及樹木ニ損傷ヲ及ホシ又之ニ固定セシムヘキ裝置ヲナス必要アルトキハ臺長ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　構内所定ノ場所以外ニ於テ火氣ヲ取扱フ場合ニハ許可ヲ受クヘシ

第十六條　左ノ場所ニ於テハ喫煙ヲ禁ス

檢定室、實驗室、倉庫、工作室、子午儀室、羅針盤室、印刷室、寫眞室、物置

第十七條　廳内出火ノ場合ニハ大要次ノ順序ニ從ヒ行動スヘシ

一、發見者、消火器ヲ以テ消火ニ努メ同時ニ臺員ニ急報スヘシ

二、第一現場參着者、火元最近ノ消火栓ヲ開キ消火ニ當ル

三、第二着者、防火裝置（ポンプ）ノ運轉ヲ開始ス

四、第三着者、消防署ニ電話シテ急報シ瓦斯栓ヲ閉ッヘシ

五、第四着者以下重要書類及物品ヲ搬出シ兼テ消火ヲ援ク

第十八條　前條ノ物品書類搬出ハ大要次ノ順序ニ從フヘシ

一、會計簿冊

二、各種觀測及調査材料及帳簿

三、公文書

四、圖書室保管雜誌報告類

五、重要器械器具

六、檢定委托ニ係ル器械類

七、其ノ他ノ物品

第十九條　防火裝置ハ取扱主任ヲ定メ其ノ機能ノ良否ヲ監視セシム
防火裝置及消火栓ハ毎月第一土曜日ニ手入ヲ行ヒ毎土曜日午後試驗ヲ行フヘシ

(七)宿直規程(大正九年九月十七日臺長決裁)

第一條　宿直員ハ判任官一名ヲ以テ充テ輪番勤務スルモノトス

第二條　宿直員ハ退廳時限ヨリ翌日登廳時限迄トシ休暇日ハ一定ノ登廳時限ヨリ翌日登廳時限迄トス
但シ交代時限ヲ過クルモ次ノ宿直員出勤セサレハ退廳スルコトヲ得ス

第三條　宿直員ハ庶務掛ヨリ左ノ簿冊及物品ヲ受取リ翌日登廳時刻ニ事務引繼ノ上之ヲ返還スヘシ
但シ翌日休廳ナルトキハ次ノ宿直員ニ引繼クヘシ

一、日誌
一、處務規程宿直規程構内取締規程
一、郵便切手
一、郵便切手受拂簿
一、文書件名簿

一、文書送達簿
一、職員住所簿

第四條　宿直員ハ宿直中ニ發生シタル事故並其ノ取扱ニ係ル一切ノ事件ハ宿直日誌ニ詳記シ署名捺印スヘシ

第五條　臺名若ハ臺長名ノ文書(親展書ヲ除ク)ヲ受ケタルトキハ凡テ開緘ノ上至急ヲ要スルモノハ主任者ニ送付シ急ヲ要セサルモノハ日誌ニ登錄シ翌朝庶務掛ニ引繼クヘシ
但翌日休廳ナルトキハ次ノ宿直員ニ引繼クヘシ

第六條　不足税又ハ未納税ノ郵便物到達スルトキハ其ノ税額ヲ支拂ヒ封皮ヲ保存スヘシ

第七條　發送ノ文書ヲ受ケタルトキハ文書件名簿ニ登錄ノ上番號ヲ附シテ發送ノ手續ヲナシ決議書ニ發送濟ノ月日ヲ記シ認印ノ上主任ニ返付スヘシ

第八條　郵便切手ヲ使用シタルトキハ郵便切手受拂簿ニ明記スヘシ

第九條　物品ヲ受取リタルトキハ品名個數ヲ日誌ニ登錄シ包裝ヲ其儘トシ保管ノ上翌日物品會計官吏ニ引渡スヘシ翌日休廳ナルトキハ次ノ宿直員ニ引繼クヘシ

第十條　宿直員ハ時々廳内及構内ヲ巡視シ小使ヲ指揮監督シ廳中諸般ノ取締ニ注意スヘシ
異變ヲ認メタルトキハ直ニ臺長及主任者ニ通知スヘシ

第十一條　宿直勤務中特別ノ事情生シタルトキハ臺長ノ許可ヲ得テ臨時退廳スルコトヲ得

但シ交代ノ宿直員ニ引繼ヲ要ス

第十二條　宿直ヲ勤務シタルモノハ事務ノ都合ニ依リ翌日臺長ノ許可ヲ經テ隨時退廳スルコトヲ得

第十三條　公休日以外ノ日ニハ事務宿直ハ別規程ノ電報當番ノ技手之ニ當リ公休日ノ宿直ハ書記之ニ當ルモノトス但シ特ニ命セラレタル場合ハ此ノ限リニ非ス

（八）當番規程（大正九年九月十七日臺長決裁）

第一條　第一部ニ天氣圖當番電報當番及助番ヲ置ク

第二條　當番及助番ハ臺長ヨリ命セラレタルモノ輪番之ニ當ルベシ

第三條　電報當番ニ當リシモノハ公休日以外ノ日ニハ事務宿直ヲ兼ヌルモノトス

第四條　天氣圖當番ハ技師之ニ當リ天氣圖ノ作製及洋上船舶ニ對スル暴風雨警戒ノ發布並特別實況報發信ノ監督ヲナス

第五條　電報當番ハ技手之ニ當リ專用電話線ニテ發信及受信スル電報全部ヲ取扱フ

第六條　專用電話線ニ依ル事務電報ノ取扱ニ關シテハ凡テ處務規程ニ依ル

第七條　着信氣象電報ハ處定用紙ニ記錄シ之ヲ天氣圖ニ記入スヘシ

第八條　電報當番ハ天氣圖當番ノ命スル計算記入又ハ作圖ヲナスヘシ

第九條　特別實況報及其ノ他ノ電報ノ發信ハ天氣圖當番ノ決裁ヲ受クヘシ

第十條　助番ハ電報當番ヲ補助シ兼テ印刷用天氣圖ノ原稿ヲ作製スヘシ

第十一條　助番ハ天氣圖印刷後自室ニ於テ通常事務ニ服シ午後四時ニ退廳スルヲ得

但シ天氣圖當番ノ命アルトキハ電報當番ヲ助ケ執務時間中ノミナラス夜間勤務ニモ服スヘシ

第十二條　天氣圖印刷ハ助番之ヲ監督シ印刷手及小使二名以内ヲ以テ之ニ當ル

第十三條　電報當番ハ二十二時以後發信電報ナキ時ハ就寢スルコトヲ得

但天氣圖當番ノ執務中ハ此ノ限リニ非ス

第十四條　電報當番執務時限三十分前ニ登廳シ前日當番ヨリ引繼ヲ受ケ交代一日間勤務ヲナスヘシ

第十五條　當番ニシテ徹夜又ハ深更迄事務ヲ取リシトキ其他特別ノ事情アルトキニ限リ臺長ノ承認ヲ經テ交代後隨時退廳スルコトヲ得

第十六條　當番助番ノ順位ハ當番技師之ヲ定メ臺長ノ裁定ヲ乞ヒ前日迄ニ通知スヘシ

（九）傭人服務心得（大正九年九月）

第一條　傭人ハ工作印刷其他各種ノ雜役ニ從事ス

第二條　傭人ハ職員ノ命令ニ服役スヘシ

第三條　傭人出勤時限ハ工作手ノ外ハ職員出勤時限ノ一時間前トシ退廳時限ハ職員退廳時限一時間後トス

但シ用務終了セサル場合ハ此ノ限リニ非ス

工作手ノ出勤時限ハ職員ニ準ス

第四條　小使ハ毎夜更替宿直スヘシ

第五條　傭人ハ病氣其他事故ノ爲出勤シ難キ時ハ出勤時限前ニ其旨臺長ニ屆出ヘシ

第六條　小使ニ左ノ當番ヲ置ク

但シ當番以外ト雖モ互ニ緩急補助スルモノトス

一、出番　外部ヘノ使者、屋外掃除

天氣圖ノ印刷(一人)

一、二階詰　常ニ二階詰所ニアリテ雜務ニ從フ

一、常詰　常ニ小使室詰所ニアリテ湯茶等ノ仕事及冬季ハ暖房火夫ノ任ニ當ルヘシ

二階詰及常詰ノ中一人天氣圖ノ印刷ニ從フ手隙ノ際ハ二階詰ヲ助テ雜務ニ從フ

當番ハ適宜輪番ニ之ニ當ルヘシ

(ロ)物品取扱心得(大正九年九月)

第一條　本臺ノ所有ニ屬スル物品ノ保管出納ハ文部省直轄各部物品會計規程ニ據リ本心得ニ從テ取扱フヘシ

第二條　物品ノ購入ヲ要スルトキハ主務技師左ノ事項ヲ記シ處務規程第五條ノ順序ニ依リ關係各掛ニ合議ノ上臺長ノ決裁ヲ乞フヘシ

一、品名

二、所要數量

三、品質又ハ品種

四、寸法ヲ示ス要アラハ寸法

五、特別ノ製作所又ハ販賣所ニ注文ヲ要スルモノハ其所

六、特別ノ工案ヲ要スルモノハ其構造(略圖ヲ添フ)

七、商品目錄所載ノ物品ハ其ノ目錄番號

八、見本アルモノハ見本添付

九、見込價格

第三條　物品ノ到着シタルトキハ直ニ之ヲ物品會計官吏ニ通知シ重要物品ハ臺長ニ報告スヘシ

第四條　物品會計官吏前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ主務者ト立會ノ上之ヲ點檢シタル後所定ノ場所ニ收容スヘシ

到着物品本臺ノ注文品ナルトキハ其注文書ニ符合スルヤ否ヲ檢査シ又送付案内狀アルトキハ之ト照合スヘシ

第五條　到着物品注文品ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ之ニ赤紙ヲ附シテ其旨ヲ記シ直ニ發送者ニ照會スル等適當ノ措置ヲ取ルヘシ

一、注文ト相違セル節アルトキ

二、破損セル所又ハ故障アルトキ

三、送附案内狀ト相違セル所アルトキ

四、注文ノ數量ニ不足セルトキ

重要ナル損傷アルトキハ臺長ニ報告シテ其ノ指揮ヲ仰クヘシ

第六條　到着ノ購入物品ニシテ前條各號ニ該當セサルトキハ速ニ受入ノ手續ヲナシ所定ノ場所ニ保管スヘシ

受入手續當日中ニ未了ノ物ハ各別ニ「購入受入未濟」ト記セル札ヲ附シ置クヘシ

技術用機械器具ノ受入ハ主務技師ニ於テ所定用紙ニ品名數量等ノ記入ヲナシ物品會計官吏ニ廻付スヘシ到着ノ雜誌報告類ハ購入品ト然ラサルモノト各別ニ所定受付簿ニ記入シ置クヘシ

第七條　技術用器械器具ハ特ニ其取扱主任及監守者ヲ置テ其取扱又ハ監守ノ責ニ任セシム

第八條　圖書ハ總テ圖書室ニ保管シ特ニ其取扱主任及監守者ヲ置テ之カ監守又ハ取扱ノ責ニ任セシム

第九條　圖書ノ中各室ノ共用又ハ各自ノ專用トナスモノ及器具ニシテ各自專用トナスモノハ決裁ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第十條　圖書ハ受入、雜誌報告類ハ受付後直ニ圖書室ニ廻付シ當該物品監守者ハ受領ノ捺印ヲナスヘシ

新著雜誌報告類ハ到着後二ケ月間所定閲覽室ニ於テ供覽スヘシ

第十一條　在庫物品ノ拂出ヲ要スルトキハ當該物品監守者請求用紙ニ品名數量日附等必要ノ事項ヲ記シテ物品會計官吏ニ廻付シ現品引換ニ受領ノ捺印ヲナスヘシ

第十二條　物品監守者ハ其監守スヘキ物品ノ品名數量受授ノ年月日ヲ所定ノ監守簿ニ記載シ修理手入破損故障其他物品ノ履歴トナルヘキ事項ヲ附記シ置クヘシ

第十三條　備品ハ種類、品名、番號ヲ附シ索引目錄ヲ作リ且使用ニ便ナル樣ニ整理シ置クヘシ

第十四條　消耗品ハ監守者ニ於テ使用明細簿ヲ作リ使途ヲ明記シ置クヘシ

第十五條　寄贈圖書ニシテ製本ノ結果永久保存ニ堪フルモノハ物品會計官吏ニ廻付シテ出納簿ニ登錄シ備品トシテ取扱フヘシ

第十六條　陳列品ハ共用物品ニ準シ特ニ監守者及取扱者ヲ置キテ監守及取扱ノ責ニ任セシム

第十七條　物品ノ使用ニ關シテハ當該物品監守者ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條　共用又ハ專用物品ノ破損故障紛失シタルトキハ速ニ之ヲ其監守者ニ報告スヘシ
此場合取扱主任ハ修理ノ上使用ニ堪フ見込アルモノハ其手續ヲ履ミ使用ニ堪エスト認メタルモノハ之ニ赤紙ヲ附シ其旨ヲ記シテ物品會計官吏ニ返附スヘシ

第十九條　物品ノ修理又ハ手入ヲ要スルトキハ使用者之ヲ取扱主任監守者及工作室主任ニ合議シ決裁ヲ經テ後施行スヘシ
但シ輕微ナル手入若クハ修理ハ取扱主任ニ於テ物品監守者ノ承認ヲ得タル後工作室主任ト協議ノ上之ヲ專行シ後之ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第二十條　備品破損若クハ紛失シタルトキハ使用者取扱主任監守者連署ノ上始末ヲ記シテ臺長ノ決裁ヲ乞フヘシ

第二十一條　器械ノ手入又ハ修理ハ必ス工作室主任ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ此際主務技師又ハ技手ハ必要ノ注意ヲ工手ニ與ヘ已ムヲ得サルトキハ自ラ工作室ニ入リテ修理ヲナスコトヲ得ルモ其ノ場合必ス工作室主任ノ同意ヲ經ヘシ

第二十二條　工作室ニ於テ器具器械ヲ製作セントスルトキハ主務技師案ヲ立テ工作室主任、物品監守者、物品會計官吏ト合議ノ上臺長ノ決裁ヲ乞フヘシ其ノ手續ハ第一條ニ準ス

第二十三條　工作室ニ於テ製作シタル器械又ハ器具完成シタルトキハ之ヲ主務技師、物品監守者、物品會計官吏ノ點檢ヲ求メ後之ヲ臺長ニ報告シ備品トシテ保存整理スヘシ
其手續ハ物品到着ノ場合ニ準ス

第二十四條　特ニ研究又ハ調査ノタメ物品ヲ廳外ニ於テ使用スル必要アルトキハ監守者ヲ經テ物品會計官吏ノ承認ヲ求ムヘシ
但シ使用短時間ノ場合ハ監守者限リ之ヲ專行シ又重要ノ器械ハ臺長ノ許可ヲ乞フヘシ

第二十五條　物品會計官吏ハ年一回以上各室共用又ハ各自專用ノ物品ノ監守又ハ取扱ニ關スル實況ヲ檢査スヘシ

第二十六條　本心得ニ掲クル帳簿及用紙ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條　圖書閲覽ニ關スル規程、檢定請求ニ係ル器械ノ取扱方ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

(二) 圖書閲覽心得（昭和八年六月一日臺長決裁）

一、職員ニシテ當臺所藏圖書ノ閲覽ヲ爲サムトスルモノハ總テ本心得ニ依ルヘシ

一、本館圖書室備付圖書ハ自由檢索トシ各自ヲシテ室内ノ圖書ヲ檢索セシメ圖書庫所藏圖書ハ圖書掛ノ手ヲ經テ檢索スルモノトス

一、總テ圖書ハ叮嚀ニ取扱ヒ破損落書等ヲ爲ササル樣注意シ檢索ノ際書類ノ位置ヲ亂ササル樣注意スヘシ

一、圖書ヲ借受ケムトスルモノハ圖書掛ノ許可ヲ受ケ書庫内ニ於テ希望圖書ヲ檢索シ所定ノ借覽簿ニ必要事項ヲ記入捺印ノ上圖書掛ニ提示シ三角板ヲ圖書ノ原位置ニ挿入シ置クヘシ

但シ新刊雜誌報告類ハ挿入板ニ雜誌名番號氏名等必要事項ヲ記入スヘシ

一、貸付期間ハ左ノ通リトス

イ、圖書類	二ケ月	
ロ、圖表雜誌類	二週間	

期限經過後引續キ借受ヲ爲サムトスルモノハ更ニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ此ノ場合ハ他ニ希望者アルトキハ貸付セサルコトアリ

一、貸付ヲ受ケタル圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

一、貸付ヲ受ケタル圖書ハ貸付期間内ト雖モ必要ニ依リ返納セシムルコトアルヘシ

一、貸付ヲ受ケタル圖書ハ貸付期間中ト雖モ檢査ノタメ毎年五月ニ必ス返納スヘシ

一、會議室備付ノ新刊圖書ハ室内ニ於テ閲覽スルノ外貸出ヲ爲ササルモノトス

一、共用圖書トシテ借受ムトスルトキハ各室ニ圖書目錄ヲ備ヘ當該物品監守者ヲ借用責任者トシ物品取扱者之カ取扱ヲ爲スヘシ

但シ共用圖書ハ法規類、圖表類其他必要ト認メタルモノトス

一、閲覽中又ハ借用中圖書ヲ紛失毀損若ハ汚染シタルモノハ同一ノ圖書ヲ以テ之ヲ辨償スヘシ

但シ時宜ニ依リ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシメ又ハ修理費ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

備考　本心得ハ昭和八年六月一日ヨリ實施ス

(三)　氣象器械、地震器械等調整檢定、製作及修理規程

（大正一〇年文部省令第一號改正　昭和二一年文部省令第四號改正）

第一條　中央氣象臺ニ氣象器械及地震器械ノ調整檢定、製作又ハ修理ヲ、海洋氣象臺ニ氣象器械及時辰儀、時計、羅針盤其ノ他航海測器ノ檢定又ハ調整ヲ依賴スル者ハ此ノ規定ニ依ルヘシ

第二條　檢定ニ合格シタル器械ニハ檢印ヲ爲シ別ニ檢定證書ヲ附ス但シ時宜ニヨリ證書ヲ附セサルコトアルヘシ

第三條　檢定證書ニハ左ノ各號ノ事項ノ一部若ハ全部ヲ記載ス

一、表示スル使用目的ニ適スルヤ否ヤ

二、器械ノ品位

三、器　差

四、各種ノ恒數

五、其ノ他必要ト認ムル事項

第四條　檢定ヲ依頼セントスル器械ニハ製作責任者ノ銘及器械ノ番號ヲ附スヘシ

第五條　器械ノ調整又ハ檢定ヲ依頼スル者ハ依頼書ニ手數料金ヲ添ヘテ現品ト共ニ差出スヘシ
器械ノ製作又ハ修理ヲ依頼スル者ハ依頼書ヲ差出シ中央氣象臺長ノ發行スル告知書ニ依リ料金ヲ納入スヘシ
前二項ノ規定ニ依リ一旦納付シタル手數料金及料金ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

第六條　檢定手數料金ハ器械ノ種類品位及檢定ノ難易ニ依リ參拾錢以上五拾圓以下ノ範圍内ニ於テ調整手數料金ハ壹圓以上百圓以下ノ範圍内ニ於テ當該氣象臺長之ヲ定ム製作料金及修理料金ハ使用材料工費等ヲ參酌シ壹圓以上五千圓以下ノ範圍内ニ於テ中央氣象臺長之ヲ定ム
前項ノ手數料金又ハ料金ハ氣象臺ニ於テ試驗又ハ研究ヲ目的トスル場合ニ於テハ之ヲ徴收セサルコトヲ得但シ製作ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　至急ヲ要スル調整又ハ檢定ヲ依頼スル者ニ對シテハ割增手數料金ヲ徴シテ之ニ應スルコトアルヘシ

第八條　至急ヲ要スル製作又ハ修理ヲ依頼スル者ニ對シテハ前項ノ規定ヲ準用ス
調整又ハ檢定ノ依頼ニ係ル器械ニシテ作業中又ハ保管中破損シ若ハ火災其ノ他避クカラサル災禍ニ因リ損害ヲ蒙ルコトアルモ氣象臺ハ其ノ責ニ任セス
修理ノ依頼ニ係ル器械ニ付其ノ修理ノ目的以外ノ箇所ニ生シタル破損又ハ損害ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス依頼ニ依リ製作又ハ修理セル器械ヲ依頼者ニ引渡ス手續中生シタル破損又ハ損害ニ付又同シ

第九條　本令施行ニ必要ナル細則ハ當該氣象臺長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十一年文部省令第二十七號中央氣象臺氣象器械檢定規程ハ之ヲ廢止ス
本令施行前ニ受理シタル器械ニ對シテハ舊規程ヲ適用ス

(三)　海洋氣象臺器械檢定規程施行細則（大正十年三月一日）

第一條　大正十年文部省令第一號中央氣象臺海洋氣象臺器械檢定規程ニ據リ海洋氣象臺ニ於テ行フヘキ器械ノ檢定又ハ調整(以下單ニ檢定又ハ調整ト稱ス)ハ本細則ニ據ル

第二條　海洋氣象臺ニ於テ依賴ニ依リ檢定又ハ調整ヲナスヘキ器械ハ別表ノ如シ

氣象器械又ハ航海測器ニシテ別表ニ掲ケサルモノト雖モ時宜ニ依リ檢定又ハ調整ヲナスコトアルヘシ

第三條　檢定ヲ分チテ左ノ四種トス

丙種檢定　本種檢定ハ時辰儀ニ限ル

短期間日々ノ時差並遲速率ヲ測定ス

乙種檢定　單ニ表示セル使用目的ニ適スルヤ否ヤノ檢査ヲ行フ

時辰儀及時計ニ在リテハ內室常溫ノ下ニ一定期間日々ノ時差並遲速率ヲ測定ス

甲種檢定　各種ノ器差中主要ナルモノニ就キ精細ノ檢査ヲ行フ

時辰儀及時計ニ在リテハ長期間日々ノ時差並ニ遲速率ヲ測定シ且遲速率ノ溫度ニ伴フ變化ヲ精査ス

特種檢定　甲種檢定中ニ定メタル檢査ノ外更ラニ檢出シ得ヘキ各種ノ器差若クハ恒數ヲ測定シ取扱ヒ若クハ環境ノ如何ニ依リ惹起サルヘキ器差時辰儀及時計ニ在リテハ遲速率)ノ變化其他特ニ精密測定ニ必要ナル各種ノ條件ヲ精査ス

第四條　調整ハ甲種調整及乙種調整ノ二種トス

割合ニ簡單ニシテ格別ノ施工又ハ試驗ヲ要セサルヲ乙種調整トシ精密ナル施工又ハ試驗ヲ要スル調整ヲ甲種調整トス

第五條　檢定ノ種類ハ依賴者ニ於テ之ヲ選擇スルコトヲ得ルモ器械ノ品位ニ依リテハ本臺ニ於テ之ヲ指定スルコトアルヘシ

調整ノ種類ハ依賴者ノ要求スル調整ノ程度及範圍ト所要ノ施工又ハ試驗ノ程度及範圍トニ關スル係員ノ見込トニ依リ本臺ニ於テ之ヲ指定ス

第六條　至急檢定又ハ至急調整ノ依賴ハ事宜ニ依リ之ニ應セサルコトアルヘシ

第七條　檢定又ハ調整ヲ依賴セントスルモノハ先ツ係員ニ就テ其器械ノ下檢査ヲ受クヘシ

下檢査ノ際係員ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ依賴ニ應セサルコトアルヘシ

一、大正十年文部省令第一號第四條ノ條件ヲ具備セサルモノ

二、器械ノ機能上顯著ナル缺陷アルカ若クハ一目シテ使用ニ適セサルコト明カナルモノ

第八條　器械ノ檢定又ハ調整ヲ依賴セントスルモノハ左記各號ノ事項ヲ記シ所定ノ料金ヲ添ヘテ申出ツヘシ但シ一旦納附シタル料金ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返附セス

一、器械名稱及器械番號
二、器械製作責任者銘
三、檢定又ハ調整依賴者住所氏名(捺印)
四、製作年製作年不明ノトキハ購入年)及修理檢定等器械ノ履歷トナルヘキ事項
五、檢定又ハ調整ノ種別
六、至急檢定又ハ至急調整ヲ依賴スルトキハ至急ヲ要スル理由
七、其他係員ノ必要ト認メテ指定シタル事項

前項第一號第二號第四號ノ事項中依賴者ニ於テ不明ノモノアルトキハ其旨ヲ依賴書ニ明記スヘシ

曾テ本臺若クハ他官廳ニ於テ檢定ヲ受ケタルコトアル器械ニ於テハ其ノ檢定證書ヲ依賴書ニ添付スヘシ但シ該證書無キトキハ其旨ヲ依賴書ニ明記スヘシ

第九條　檢定又ハ調整ノ依賴ヲ受理シタルトキハ當該器械ト引換ニ受理證書ヲ交附ス

第十條　甲種檢定又ハ特種檢定ノ依賴ヲ受理シタルトキハ先ツ乙種檢定ニ定メタル檢査若クハ測定ヲ行ヒ其結果使用ニ適セズト認メタルトキハ其儘當該器械ヲ依賴者ニ返附ス

第十一條　調整ノ依賴ニ應ジタル器械ハ調整終了後乙種若クハ甲種檢定ヲ行フ此場合別ニ檢定料金ヲ徵收セス

第十二條　檢定ノ依賴ヲ受理シタル器械ニシテ檢定作業ノ經過ニ依リ使用ニ適セスト認ムルモ調整ノ上使用ニ適スルモノトナシ得ル見込アルトキハ其旨ヲ依賴者ニ通知ス此場合依賴者ハ一時其器械ノ返附ヲ受ケテ自ラ調整ヲナスコトヲ得

前項ノ返附ヲ受ケントスルトキハ檢定依賴受理證書ヲ係員ニ示シテ其旨ヲ申出テ該證書上ニ一時返附ノ證印ヲ受ケタル後當該器械ヲ受取ルヘシ

返附ヲ受ケタル器械ノ調整ヲ了ヘ再ヒ之ヲ提出スルトキハ別ニ檢定料ヲ徵セスシテ其儘檢定作業ヲ繼續施行ス但シ指定ノ日限ニ遲レテ提出シタル場合ハ此限ニアラス

前項再提出ノ際ハ受理證書上ニ再提出ノ證印ヲ受クヘシ

第一項ノ調整ヲ本臺ニ依賴セントスルトキハ別ニ第八條ノ手續ヲナスヘシ但シ此場合料金ハ既納檢定料金ト當該調整料金トノ差額ヲ徵收ス

第十三條　檢定ノ結果使用ニ適スルモノト認メタル器械ニハ檢印ヲ附シ別ニ檢定證書ヲ附ス但シ事宜ニ依リ檢定證書ヲ附セサルコトアルヘシ

檢定證書ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條　檢定ヲナシタル器械ニハ品位ヲ附シ之ヲ檢定證書ニ記ス但シ器械ノ種類ニ依リテハ之ヲ附セサルコトアルヘシ

乙種檢定ニ在リテハ品位ヲ附セス

品位ノ分チ方ハ別記(二)ニ據ル但シ特種檢定ヲ經タル器械ニシテ特ニ優良ト認メタルモノニハ特別ノ品位ヲ附スルコトアルヘシ

第十五條　檢定證書ヲ紛失シタルノ故ヲ以テ其再下附ヲ乞フモノアルトキハ其期日カ檢定施行後二ケ年以内ノ場合ニ限リ之ニ應スルコトアルヘシ

檢定證書ノ再下附ヲ受ケントスルトキハ第八條第一號乃至第五號ノ事項ヲ記シ當該檢定料ノ半額ニ等シキ料金ヲ添ヘテ願出ツヘシ

前項出願ノ際本臺ノ要求アルトキハ當該器械ヲ提出シテ其點檢ヲ受クヘシ

第十六條　檢定又ハ調整結了シタルカ若クハ其他ノ事由ニ依リ當該器械ヲ依賴者ニ返附スル必要アルトキハ依賴書ニ記載セル住所(轉居ノ通知アリタル場合ニハ轉居先)ニ宛テ依賴者ニ其旨ヲ通知ス

依賴者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ通知書ニ指定セル期日ニ出頭シテ受理證書ト引換ニ當該器械ヲ引取ルヘシ

依賴者第一項ノ通知ヲ受ケタル後一ケ月ヲ經ルモ尚當該器械ヲ引取ラサルトキハ催告ヲ發ス

依賴者前項ノ催告書ニ指定セル期日ニ遲レテ出頭シタル場合ニハ遲延日數一日ニ付當該檢定又ハ調整料金ノ百分ノ一ノ割合ヲ以テ保管料ヲ徵收ス

受理證書ヲ紛失シタル場合ニハ第八條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記シテ其旨ヲ屆出テ器械引取ノ際依賴書ニ押捺セルト同一ノ印ヲ押捺セル受領書ヲ提出スヘシ

依賴者第三項ノ催告ヲ受ケタル後一ケ年ヲ經過スルモ尚當該器械ノ引取ニ出頭セサルトキハ一ケ月公示ノ後之ヲ沒收ス

第十七條　調整ノ依賴ヲ受理シタル器械ニシテ調整ヲ試ムルモ其效果無キトキハ當該器械ハ其儘依賴者ニ返附ス

第十八條　檢定又ハ調整ノ依賴ヲ受理シタル器械ニシテ保管檢定又ハ調整中損傷ヲ生シ若クハ火災等ニ依リ亡失スルコトアルモ本臺ハ其責ニ任セス

第十九條　檢定料金ハ別表(三)ニ據ル

調整料金ハ別表(四)ニ據ル

但シ特殊ノ器械及特別ノ施工又ハ試驗ヲ要スル場合ニアリテハ其都度料金額ヲ査定ス

至急檢定又ハ至急調整ノ料金ハ普通檢定又ハ普通調整ノ料金ノ三倍トス

第二十條　調整ノ爲特ニ材料ヲ要スルトキハ依賴者ヲシテ之ヲ提供セシム但シ一旦提供シタル調整材料ハ如何ナル事情アルモ之ヲ返附セス

前項ノ材料ハ本臺ノ指示ニ從ヒ調整依賴書ト共ニ之ヲ提出スヘシ

調整着手後既ニ提供セル材料以外更ニ材料ノ必要ヲ認メタルトキハ依賴者ヲシテ追加

提出セシム此場合依頼者ニ於テ其提供ヲナササルトキハ調整ヲ中止ス

附　則

本細則ハ三月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表(三)(四)省略

(四) 氣象無線通報取扱規程（昭和五年三月十日改正）

第一章　總　則

第一條　氣象無線通報トハ左ノ二種ノ電報ヲ云フ

一、實況氣象報

二、警報氣象報

第二條　實況氣象報ノ放送ハ持續電波七十五「キロサイクル」(四千メートル)ノ周波數(波長)ヲ以テ一日三回左記一定ノ時刻ニ於テ之ヲ爲ス

第一回　午前八時三十分ヨリ

第二回　午後二時三十分ヨリ

第三回　午後八時三十分ヨリ

警報氣象報ノ放送ハ通常持續電波七十五「キロサイクル」(四千メートル)ノ周波數(波長)ヲ以テ實況氣象報ノ放送ニ引續キ之ヲ爲シ特ニ緊急ヲ要スルモノハ可聽持續電波五百「キロサイクル」(六百メートル)ノ周波數(波長)ヲ以テ隨時(沈默時間中ナルトキハ其ノ終末ニ)及次ノ沈默時間ノ直後ニ放送ス

第三條　呼出符號ハ「JTJ」トス

第四條　氣象報ノ放送ニ使用スヘキ周波數(波長)ハ左ノ區別ニ依ル

實況氣象報

持續電波　七十五「キロサイクル」(四千メートル)

警報氣象報

持續電波　七十五「キロサイクル」(四千メートル)又ハ可聽持續電波

五百「キロサイクル」(六百メートル)

第五條　實況氣象報其他ノ放送ハ左ノ事項ヲ列記ノ順序ニ從ヒ送信ス

1　C　(三回)

2　Q　(一回)

3　前置符號　(一回)

4　自己ノ呼出符號　(一回)

5　氣象報　(二回)

結了符號　(一回)

6　自己ノ呼出符號　（一　回）

第二章　實況氣象報

第六條　實況氣象報ハ午前六時正午及午後六時ニ觀測セル左記二十個所ノ氣象實況ヲ左ノ順ニ依リ報シ其末尾ニ高低壓部ニ關スル記事ヲ加ヘシモノヲ云フ各頭書ノ數字及ヒ英字ハ其地名ヲ示ス符號ナリ(總字數百二十字)

3 石垣　5 名瀬　7 清水　8 潮岬　B 下關　C 境　E 銚子
G 父島　H 福井　J 新潟　Q 釜山　R 木浦　V 旅順　X 新京
Y 青島　Z 上海　K 神戸　M 宮崎　N 長崎　S 城津

第六條ノ二　前項ノ個所ヨリノ氣象電報未着ノ時ハ之ヲ省キ左ノ個所ノ氣象報ヲ末尾高低壓部實況ノ前ニ追加ス

O 臺中　1 ラサ島　2 臺北　4 那覇　6 室戸　9 佐世保　A 吳
D 濱松　F 八丈島　I 石卷　L 秋田　O 青森　P 札幌　T 浦河
U 根室　W 眞岡

第七條　實況氣象報中各所ノ觀測ハ一個所毎ニ數字一字英字母四字又ハ英字母五字ヲ用ヒ左ノ式ニヨリ記ス

地名○　氣壓○　風力○　天氣○　風向○

第八條　氣壓ハ第一表ノ符號ニヨリ、風力天氣ハ第二表ノ符號ニヨリ、風向ハ第三表ノ符號ニヨリ之ヲ記ス

第九條　高低氣壓ノ實況ハ英字母二十字ヲ用ヒ左ノ式ニヨリテ之ヲ報ス

高壓部：位置○○　示度○○　記事○○
第一低壓部：位置○○○　示度○○　方向○○　速度○○　記事○○
第二低壓部：位置○○○　示度○○　方向○○　速度○○　記事○○

第十條　高壓部ノ位置ハ第四表ノ符號ニヨリ第一字ハ緯度第二字ハ經度ヲ示ス、示度ハ第五表ニヨリ、記事ハ第六表ニヨル

第十一條　低壓部ノ位置ヲ示ス初メノ二字ハ第四表ニヨリ緯度經度ヲ示ス、第三字ハ更ニ第七表ニヨリ其緯經方形內ノ區分ヲ示ス

第十二條　低壓部中心示度ハ第八表ニヨリ進行方向ハ第九表ニヨリ進行速度ハ第十表ニヨリ、第一記事ハ第十一表、第二記事ハ第十二表ニヨリテ之ヲ示ス

第三章　警報氣象報

第十三條　警報氣象報ハ英吉利語ヲ使用シ左ノ例ニヨリ普通文ヲ以テ之ヲ記ス

例一、Typhoon Longitude 135 Latitude 25 moving towards northnorthwest

（譯文）颱風東經一三五度北緯二五度ニ在リテ北北西ニ進行ス

例二〃 Cyclone north China moving eastwards severe snow storm expected Japan Sea tonight.

(譯文) 支那北部ノ低氣壓東方ニ移動ス今晩日本海ニテハ風雪烈カルベシ

例三〃 Northwest gale expected Satamisaki to Shiomisaki.

(譯文) 佐多岬ヨリ潮岬ニ至ル海上北西ノ風强カルベシ

例四〃 Northwest monsoon will continue two days more.

(譯文) 北西ノ信風尚二日間吹續スベシ

第一表　氣　壓

巻 ＼ 十分位	○·○	○·一	○·二	○·三	○·四	○·五	○·六	○·七	○·八	○·九
七一一以下	AA									
七一一	AB	—	AC	—	AD	—	AE	—	AF	—
七一二	AG	—	AH	—	AI	—	AJ	—	AK	—
七一三	AL	—	AM	—	AN	—	AO	—	AP	—
七一四	AQ	—	AR	—	AS	—	AT	—	AU	—
七一五	AV	—	AW	—	AX	—	AY	—	AZ	—
七一六	BA	—	BB	—	BC	—	BD	—	BE	—
七一七	BF	—	BG	—	BH	—	BI	—	BJ	—
七一八	BK	—	BL	—	BM	—	BN	—	BO	—
七一九	BP	—	BQ	—	BR	—	BS	—	BT	—
七二〇	BU	BV	BW	BX	BY	BZ	CA	CB	CC	CD
七二一	CE	CF	CG	CH	CI	CJ	CK	CL	CM	CN
七二二	CO	CP	CQ	CR	CS	CT	CU	CV	CW	CX
七二三	CY	CZ	DA	DB	DC	DD	DE	DF	DG	DH
七二四	DI	DJ	DK	DL	DM	DN	DO	DP	DQ	DR
七二五	DS	DT	DU	DV	DW	DX	DY	DZ	EA	EB
七二六	EC	ED	EE	EF	EG	EH	EI	EJ	EK	EL
七二七	EM	EN	EO	EP	EQ	ER	ES	ET	EU	EV
七二八	EW	EX	EY	EZ	FA	FB	FC	FD	FE	FF
七二九	FG	FH	FI	FJ	FK	FL	FM	FN	FO	FP

十分位 / 粍	〇·〇	〇·一	〇·二	〇·三	〇·四	〇·五	〇·六	〇·七	〇·八	〇·九
七三〇	FQ	FR	FS	FT	FU	FV	FW	FX	FY	FZ
七三一	GA	GB	GC	GD	GE	GF	GG	GH	GI	GJ
七三二	GK	GL	GM	GN	GO	GP	GQ	GR	GS	GT
七三三	GU	GV	GW	GX	GY	GZ	HA	HB	HC	HD
七三四	HE	HF	HG	HH	HI	HJ	HK	HL	HM	HN
七三五	HO	HP	HQ	HR	HS	HT	HU	HV	HW	HX
七三六	HY	HZ	IA	IB	IC	ID	IE	IF	IG	IH
七三七	II	IJ	IK	IL	IM	IN	IO	IP	IQ	IR
七三八	IS	IT	IU	IV	IW	IX	IY	IZ	JA	JB
七三九	JC	JD	JE	JF	JG	JH	JI	JJ	JK	JL
七四〇	JM	JN	JO	JP	JQ	JR	JS	JT	JU	JV
七四一	JW	JX	JY	JZ	KA	KB	KC	KD	KE	KF
七四二	KG	KH	KI	KJ	KK	KL	KM	KN	KO	KP
七四三	KQ	KR	KS	KT	KU	KV	KW	KX	KY	KZ
七四四	LA	LB	LC	LD	LE	LF	LG	LH	LI	LJ
七四五	LK	LL	LM	LN	LO	LP	LQ	LR	LS	LT
七四六	LU	LV	LW	LX	LY	LZ	MA	MB	MC	MD
七四七	ME	MF	MG	MH	MI	MJ	MK	ML	MM	MN
七四八	MO	MP	MQ	MR	MS	MT	MU	MV	MW	MX
七四九	MY	MZ	OA	OB	OC	OD	OE	OF	OG	OH
七五〇	OI	OJ	OK	OL	OM	ON	OP	PQ	OR	OS
七五一	OT	OU	OV	OW	OX	OY	OZ	PA	PB	PC
七五二	PD	PE	PF	PG	PH	PI	PJ	PK	PL	PM
七五三	PN	PO	PP	PQ	PR	PS	PT	PU	PV	PW
七五四	PX	PY	PZ	QA	QB	QC	QD	QE	QF	QG
七五五	QH	QI	QJ	QK	QL	QM	QN	QO	QP	QQ
七五六	QR	QS	QT	QU	QV	QW	QX	QY	QZ	RA

粍＼十分位	〇·〇	〇·一	〇·二	〇·三	〇·四	〇·五	〇·六	〇·七	〇·八	〇·九
七五七	RB	RC	RD	RE	RF	RG	RH	RI	RJ	RK
七五八	RL	RM	RN	RO	RP	RQ	RR	RS	RT	RU
七五九	RV	RW	RX	RY	RZ	SA	SB	SC	SD	SE
七六〇	SF	SG	SH	SI	SJ	SK	SL	SM	SN	SO
七六一	SP	SQ	SR	SS	ST	SU	SV	SW	SX	SY
七六二	SZ	TA	TB	TC	TD	TE	TF	TG	TH	TI
七六三	TJ	TK	TL	TM	TN	TO	TP	TQ	TR	TS
七六四	TT	TU	TV	TW	TX	TY	TZ	UA	UB	UC
七六五	UD	UE	UF	UG	UH	UI	UJ	UK	UL	UM
七六六	UN	UO	UP	UQ	UR	US	UT	UU	UV	UW
七六七	UX	UY	VZ	VA	VB	VC	VD	VE	VF	VG
七六八	VH	VI	VJ	VK	VL	VM	VN	VO	VP	VQ
七六九	VR	VS	VT	VU	VV	VW	VX	VY	VZ	WA
七七〇	WB	WC	WD	WE	WF	WG	WH	WI	WJ	WK
七七一	WL	WM	WN	WO	WP	WQ	WR	WS	WT	WU
七七二	WV	WW	WX	WY	WZ	XA	XB	XC	XD	XE
七七三	XF	XG	XH	XI	XJ	XK	XL	XM	XN	XO
七七四	XP	XQ	XR	XS	XT	XU	XV	XW	XX	XY
七七五	XZ	YA	YB	YC	YD	YE	YF	YG	YH	YI
七七六	YJ	YK	YL	YM	YN	YO	YP	YQ	YR	YS
七七七	YT	YU	YV	YW	YX	YY	YZ	ZA	ZB	YC
七七八	ZD	ZE	ZF	ZG	ZH	ZI	ZJ	ZK	ZL	YM
七七九	ZN	ZO	ZP	ZQ	ZR	ZS	ZT	ZU	ZV	YW
七八〇	ZX	ZY								
七八〇以上	ZZ									

注意　電報未着ノ場合ハ〇〇ヲ以テ填充ス

第二表　風力及天氣

天氣＼風力（ビ氏階級）	0及1（穏）	2及3（軟風）	4及5（疾風）	6及7（強風）	8及9（烈風）	10以上（颶風）
晴（快晴共）	A	A	B	C	D	E
曇	F	F	G	H	I	J
雨	K	K	L	M	N	P
雪	Q	Q	R	S	T	U
霧	V	V	W	X	Y	Z

注意　一、階級名稱ハ便宜上之ニ近キ陸上階級名稱ヲ附セリ

注意　二、靜穏ト軟風ハ同ジ符號ナルモ風向ノ有無ニヨリ之ヲ區別シ得ベシ

注意　三、電報未着ノ場合ハ〇ヲ以テ塡充ス

第三表　風向

方向	符號
N	N
NNE	O
NE	P
ENE	Q
E	E
ESE	F
SE	G
SSE	H
S	S
SSW	T
SW	U
WSW	V
W	W
WNW	X
NW	Y
NNW	Z
靜穏	C

注意　電報未着ノ場合ハ〇ヲ以テ塡充ス

第四表　高低壓部位置

（本臺ノ天氣圖範圍內ニテ最モ高壓ノ又ハ低壓ノ地域ノ意ニシテ必ズシモ高氣壓低氣壓中心ノ意ニアラズ）

	北緯					
同	A 四—六	B 六—八	C 八—一〇	D 一〇—一二	E 一二—一四	F 一四—一六
同	G 一六—一八	H 一八—二〇	I 二〇—二二	J 二二—二四	K 二四—二六	L 二六—二八
同	M 二八—三〇	N 三〇—三二	P 三二—三四	Q 三四—三六	R 三六—三八	S 三八—四〇
同	T 四〇—四二	U 四二—四四	V 四四—四六	W 四六—四八	X 四八—五〇	Y 五〇—五二
同	Z 五二—五四					

第五表　高壓部示度（高壓部ニ於テ氣壓ノ大要ヲ示ス）

百十位 ＼ 一位	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
七六	W	V	U	T	S	R	Q	P	O	N
七五	—	—	—	—	—	—	—	Z	Y	X

東經	A 一一〇—一一三	B 一一三—一一四	C 一一四—一一六	D 一一六—一一八	E 一一八—一二〇	F 一二〇—一二三
同	G 一二三—一二四	H 一二四—一二六	I 一二六—一二八	J 一二八—一三〇	K 一三〇—一三二	L 一三二—一三四
同	M 一三四—一三六	N 一三六—一三八	P 一三八—一四〇	Q 一四〇—一四二	R 一四二—一四四	S 一四四—一四六
同	T 一四六—一四八	U 一四八—一五〇	V 一五〇—一五二	W 一五二—一五四	X 一五四—一五六	Y 一五六—一五八
同	Z 一五八—一六〇					

第六表　高壓部記事

七七	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D
七八	C	B	A							

A　部內ノ氣壓漸次上昇スル見込

B　部內ノ氣壓漸次下降スル見込

C　高壓部東方ニ移動スル見込

D　高壓部北方ニ移動スル見込

E　高壓部北東方ニ移動スル見込

F　高壓部南東方ニ移動スル見込

G　高壓部南方ニ移動スル見込

H　高壓部滯留スル見込

I　此高壓部ハ移動性高氣壓ナリ

J　此高壓部ハ西比利亞高氣壓ノ東ノ部分ナリ

K　此高壓部ハ北太平洋高氣壓ノ西ノ部分ナリ

L　此高壓部ハ獨立セル高氣壓ニシテ範圍大ナリ

M　此高壓部ハ獨立セル高氣壓ニシテ範圍小ナリ

N　此高壓部ハ移動性高氣壓ニシテ漸次發達ス

O　此高壓部ハ移動性高氣壓ニシテ漸次衰弱ス

P　此高壓部ハ西比利亞高氣壓ノ東ノ部分ニシテ漸次發達ス

Q　此高壓部ハ西比利亞高氣壓ノ東ノ部分ニシテ漸次衰弱ス

R　此高壓部ハ北太平洋高氣壓ノ西ノ部分ニシテ漸次發達ス

S　此高壓部ハ北太平洋高氣壓ノ西ノ部分ニシテ漸次衰弱ス

T　此高壓部ハ西比利亞高氣壓ノ東ノ部分ニシテ漸次衰弱ス

U　此ノ外ニ太平洋方面ニ他ノ高氣壓アリ

V　此ノ外ニ大陸方面ニ他ノ高氣壓アリ

W　此ノ外ニ他ニ高氣壓アリ

X　高壓部示度上昇シ信風（モンスーン）強カルベシ

Y　高壓部示度變ラズ信風（モンスーン）吹續スベシ

Z　高壓部示度下降シ信風（モンスーン）衰フベシ

第七表　區分

（第四表ニヨリ緯經二度方形內ノ小區分ナリ）

A　第一象眼

B　第二象眼

C　第三象眼

D　第四象眼

O　全區

e　第一象眼第一小區

f　第一象眼第二小區

g　第一象眼第三小區

h　第一象眼第四小區

i　第二象眼第一小區

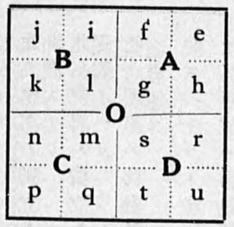
j　第二象眼第二小區

k　第二象眼第三小區

l　第二象眼第四小區

m　第三象眼第一小區

n　第三象眼第二小區



p　第三象眼第三小區

q　第三象眼第四小區

r　第四象眼第一小區

s　第四象眼第二小區

t　第四象眼第三小區

u　第四象眼第四小區

第八表　低壓部示度

百十位＼一位	〇	二	四	六	八
七一	—	—	Z	Y	X
七二	W	V	U	T	S
七三	R	Q	P	N	M
七四	L	K	J	I	H
七五	G	F	E	D	C
七六	B	A			
不明	O				

第九表　低壓部進行方向

M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A
北	北々西	北西	西北西	西	西南西	南西	南東	東南東	東	東北東	北東	北々東

O	不明	
Z	大體北ノ方ニ進行ス	
Y	大體西ノ方ニ進行ス	
X	大體東ノ方ニ進行ス	
W	滯留又ハ進行方向ヲ示サズ	
V	北	但シ北西ニ轉向セントス
U	北	但シ北東ニ轉向セントス
T	北西	但シ西ニ轉向セントス
S	北西	但シ北東ニ轉向セントス
R	西	但シ北ニ轉向セントス
Q	東	但シ北東ニ轉向セントス
P	北東	但シ北ニ轉向セントス
N	北東	但シ東ニ轉向セントス

第十表　低壓部進行速度（一時間粁ニテ示ス）

十位 ＼ 一位	○	一	二	三	四	五	六	七	八	九
○	A									
一	F									
二	K									
三	Q									
四	V									
五	X									
六	Y									
六以上	Z									
不明	O									
○	A									
一	F									
二	K									
三	Q									
四	V									
五	X									
六	Y									
七	Z									
八	O									
九										

備考　一・八五粁ハ一海里ニ相當ス又一粁ハ約〇・五四海里ニ當ル

第十一表　低壓部第一記事

A	此低壓部ハ颱風ナリ
B	此低壓部ハ發達シテ颱風トナラン
C	此低壓部ハ猛烈ナル颱風ナリ
D	此低壓部ハ低氣壓ナリ
E	此低壓部ハ猛烈ナル低氣壓ナリ
F	此低壓部ハ副低氣壓ナリ
G	此低壓部ハ副低氣壓ニ發達セン
H	此低壓部ハ發達シテ低氣壓トナラン
I	低壓部ナリ
J	殆ド固定セル低壓部ナリ

第十二表　低壓部第二記事

A	漸次發達スル見込
B	漸次衰弱スル見込
C	中心附近風雨烈シ
D	中心附近風雪烈シ
E	顯著ナル陣風線(不連續線)中心ヨリ南ニ走ル
F	顯著ナル陣風線(不連續線)中心ヨリ南西ニ走ル
G	顯著ナル陣風線(不連續線)中心ヨリ西南西ニ走ル
H	顯著ナル陣風線(不連續線)中心ヨリ西ニ走ル
I	中心附近ノ模樣判然セズ
J	勢力微弱ナリ
K	風雨區域廣シ
L	風雪區域廣シ
M	中心ヨリ三〇〇粁以内風力八以上
N	中心ヨリ五〇〇粁以内風力八以上
O	記スベキ事ナシ
P	中心ヨリ三〇〇粁以内風力六以上
Q	中心ヨリ五〇〇粁以内風力六以上
R	中心ヨリ七〇〇粁以内風力六以上
S	此低氣壓通過後日本海及北海道附近北西信風(モンスーン)強カルベシ
T	此低氣壓通過後日本海及北海道附近北西ノ風雪強カルベシ
U	此低氣壓通過後支那東海ニ北ノ信風(モンスーン)強カルベシ
V	此低氣壓通過後日本海及北海道附近北西ノ信風(モンスーン)強クシテ支那東海北ノ信風(モンスーン)強カルベシ
W	此低氣壓ハ日本海ニ入ルニ及ビ急ニ發達シ風雪ヲ伴フベシ
X	此低氣壓ハ黃海ニ入ルニ及ビ急ニ發達スベシ
Y	此低氣壓ハ東海ニ入ルニ及ビ急ニ發達スベシ
Z	此低氣壓ハ材料不足ノ爲其ノ位置確ナラズ

(五)　觀測船船員職務規程(昭和二年十月)

第一條　觀測船ニ左ノ船員ヲ置ク

船長、機關長、運轉士、機關士、無線電信手、水夫、油差、舵夫、賄夫、給仕

第二條　船長、機關長、運轉士、機關士、無線電信手ハ氣象臺技手、或ハ海洋氣象臺囑託員雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　臺長ハ前條船員ノ外ニ觀測ニ從事スル爲臺員ニ乘船ヲ命ス此ノ場合觀測員ハ觀測ノミニ從事シ乘船及下船其他船内ニ於ケル起居ハ船長ノ指圖ヲ受クヘシ

第四條　船長以下ノ各船員ハ其ノ本務ノ餘暇ヲ以テ觀測員ヲ援助シ觀測ニ從事スヘシ

第五條　船長ハ臺長ノ命令ニヨリ船ノ運用ニ膺リ船員ヲ監督シ船體及附屬艇ノ保管操縱ニ關スル一切ノ事項ヲ擔當ス

第六條　機關長ハ船長ノ指揮ニ從ヒ機關ニ關スル一切ノ事項ヲ擔當ス

第七條　運轉士ハ船長ノ指揮ニ從ヒ運用航海ノ事項ニ從事シ船長不在ノトキハ船長事務ヲ代理ス

第八條　機關士ハ機關長ノ指揮ニ從ヒ機關部ニ於ケル一切ノ事項ニ從事シ機關長不在ノ時ハ機關長事務ヲ代理ス

第九條　無線電信手ハ船長ノ指揮ニ從ヒ無線電信送受ノ事務ヲ擔當ス

第十條　水夫長及水夫ハ船長ノ指揮ニ從ヒ船ノ運用並航海ノ業務ニ服シ併セテ船内ノ雜務ニ從事ス

第十一條　舵夫ハ船長ノ命ニ從ヒ操舵機及航用羅針盤ニ特ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直チニ船長ニ報告シ其他船内ノ雜務ニ從事ス

第十二條　油差ハ機關長及機關士ノ指揮ニ從ヒ機關ニ關スル業務ニ服シ併セテ船内ノ雜務ニ從事ス

第十三條　賄夫ハ船長ノ指揮ニ從ヒ糧食ノ取扱及食品調理ニ從事スヘシ

第十四條　給仕ハ船長ノ指揮ニ從ヒ船室ヲ掃除其他賄夫ヲ補助シ雜務ニ從事スヘシ

第十五條　水夫長ヲ命セラレタルモノハ船長ノ指揮ヲ受ケ水夫、舵夫、油差、賄夫、給仕ヲ取締リ船内諸般ノ勤務ニ服セシメ尙左ノ各項ヲ執行スヘシ

一、毎日終業ノ際其ノ結果顚末ヲ船長ニ報告スルコト

一、碇泊中毎日午前六時ニ水夫以下ノ點檢ヲ爲スコト

第十六條　當番ヲ命セラレタル水夫以下ハ船用品ヲ監守シ常ニ其ノ出入ヲ明ニスヘシ

第十七條　端艇掛ヲ命セラレタル水夫ハ端艇ノ繫留保管修繕等ニ注意シ尙ホ重大ノ件ハ船長ニ報告スヘシ

第十八條　船燈掛ヲ命セラレタルモノハ常ニ船内燈器ノ保管及點燈ニ注意スヘシ

第十九條　水夫以下ノ船員ハ船長ノ許可ナクシテ上陸スルコトヲ得ス

第二十條　船内ニ於テ左ノ帳簿ヲ備ヘ船長之ヲ整理ス

一、日　誌　　一、出勤簿

一、備品監守簿　　一、消耗品受拂簿

其他法令ニ依ル諸帳簿

三、關係法令

(一) 官吏服務規律　明治二十年七月勅令第三十九號……本文省畧
(二) 文官懲戒令　明治三十二年三月勅令第六十三號……本文省畧
(三) 文官分限令　明治三十二年三月勅令第六十二號……本文省畧
(四) 在外研究員規程　大正十一年一月勅令第六號……本文省畧
(五) 會計法　大正十年法律第四十二號……本文省畧
(六) 會計規則　大正十一年一月勅令第一號……本文省畧
(七) 物品會計規則　明治二十二年勅令第八十四號……本文省畧
(八) 各官廳執務時間　大正十一年七月閣令第六號……本文省畧
(九) 休暇日　明治六年一月太政官布告第二號……本文省畧
(十) 官員父母祭日休暇　明治六年九月太政官達第三一八號……本文省畧

(十一) 日曜日休暇ノ件　明治九年三月太政官達第二十七號……本文省畧
(十二) 休日ニ關スル件　昭和二年三月勅令第二十五號……本文省畧

四、事業要項

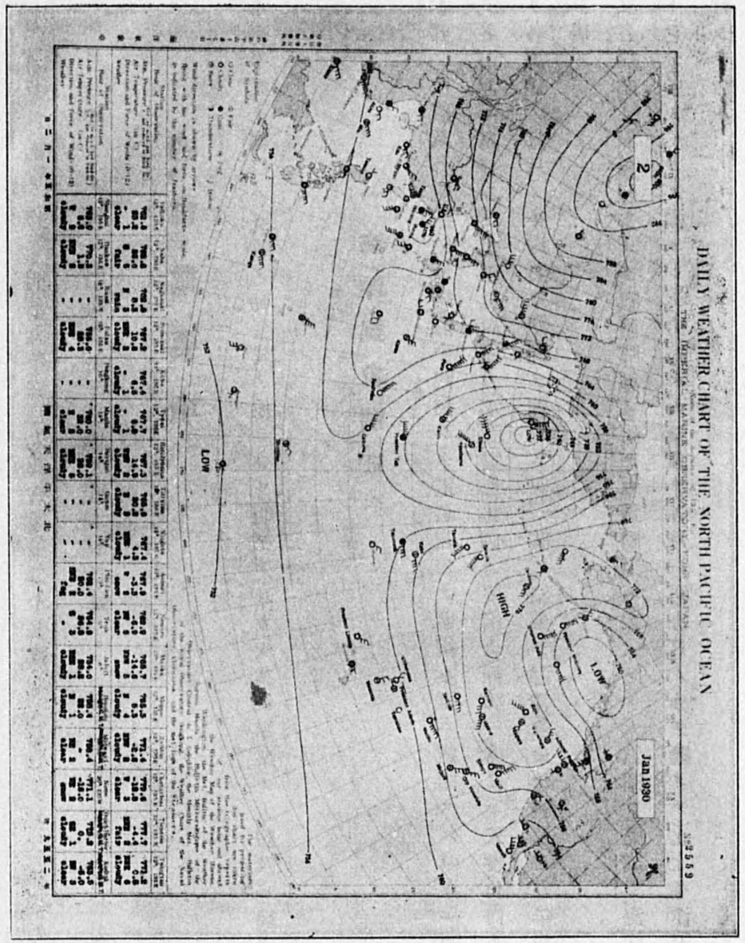
本臺事業ノ綱目ハ既述ノ勅令其ノ他ニヨリ明デアルガ、尙其ノ事業ノ大體及ビ經過ヲ述ベルト次ノ樣デアル。

(一) 海洋氣象調査

本邦ノ內航及外航船舶ハ航海中觀測シタ氣象報告ヲ直接本臺ニ送附スルコトニナツテ居ル、コノ報告ヲ各海洋ニ區分シテ、氣壓、風向風力、水溫、雲量其他ノ要素ヲ經緯一度又ハ五度角內ニ分類シテ統計ヲ取リ、各海洋ノ每月ノ平均氣象狀況ヲ調査スル。其ノ結果ヲ海洋氣象年報及ビ五年報トシテ印刷發行シテ居ル。

又各船舶ノ氣象報告ヨリ觀測時刻ノ値ヲ天氣圖上ニ記入シテ天氣圖ヲ完成シ、海洋氣象ノ研究ノ資料トシテ居ル。コノ樣ニシテ出來タ天氣圖ヲ各月一回(每日ノ分ヲ纏メテ)北太平洋天氣圖トシテ印刷發行シテ居ル。

北太平洋天氣圖



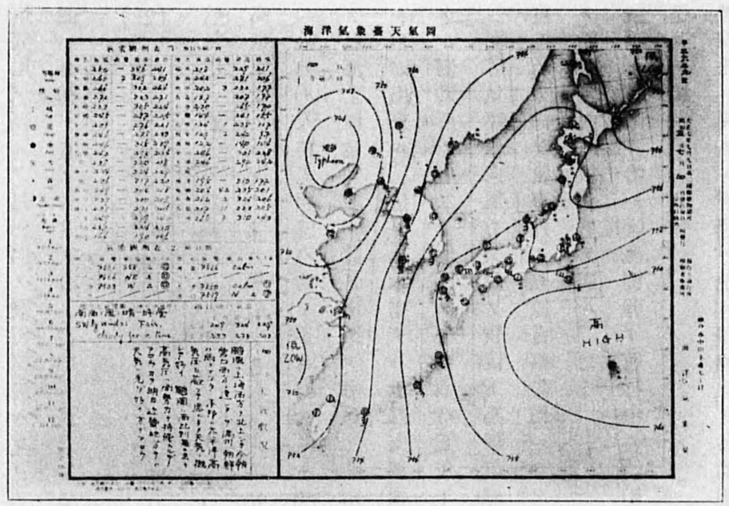
以上ノ各年報及北太平洋天氣圖ヲ基トシ、各月ノ平均氣象狀況ヲ調査シテ氣象圖ヲ作製シ、之レニ簡單ナル說明ヲ附シテ「北太平洋の氣象」ト題シ航路選定ノ參考ニ資スル爲メ每月之レヲ發行シテヲル。

海洋氣象ノ觀測ニ就テハ曩ニ海洋氣象觀測法及雲級圖ヲ刊行シテ、弘ク船舶ニ配布シ觀測ノ便ニ供シタ。尙觀測法ノ研究ニ就テハ引キ續キ實地ニ就テ之ヲ行フテ居ル。

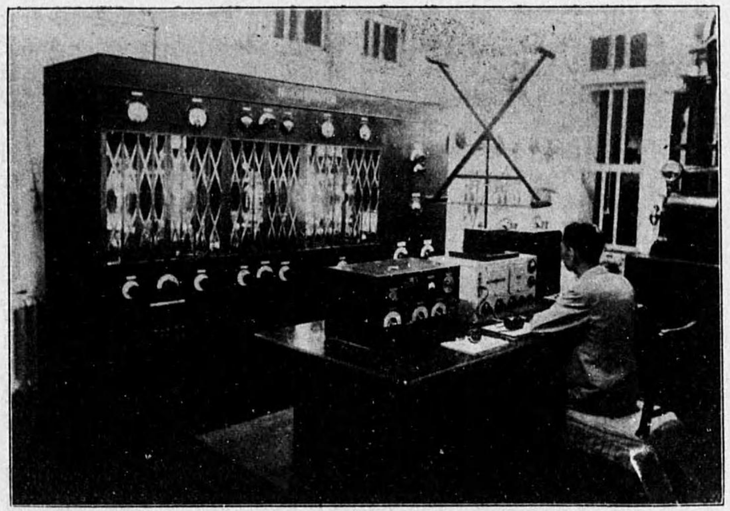
(二) 氣象電報及天氣圖

本臺ニテハ午前六時、正午及午後六時ノ三回ニ日本、南洋、支那、ヒリツピンノ約五十個所ノ測候所ヨリ定時氣象報ヲ受ケ、且ツ聽取シ得ル東洋各地ノ氣象無線報ヲ受ケテ每日三回天氣圖ヲ作製シ、洋上ノ船舶ニ暴風警報ヤ氣象實況ノ無線報ヲ出ス外ニ、天氣圖ヲ複寫器ニヨリ簡單ニ印刷シ、主トシテ阪神地方ノ需要家ニ頒ツテ居ル。

コノ天氣圖ハ本邦附近ノ午前六時ニ於ケル狀況ヲ示スモノデ其ノ概況トシテ今後ニ於ケル變化ノ豫想ヲモ載セテ居ル。其ノ外各地ノ氣溫雨量等ノ氣象要素ガ揭ゲテアル。前述ベタ北太平洋天氣圖ハ主トシ



日刊天氣圖



無線電信發信室

テ調査研究用デ經メテ月一回ノ發行デアルガ、コノ方ノ天氣圖ハ日刊デ其ノ日其ノ日ノ實用ニ供シテ居ル。

(三) 無線氣象報

洋上航行中ノ船舶ハ無線電信ニヨリ一日數回各地氣象ト高低氣壓ノ狀況ヲ受ケ船舶中デ天氣圖ヲ作レバ、航路ニ於ケル天候ノ狀態ハ恰モ手ニ取ル樣ニ明瞭トナツテ、航海上便益ガ多イ計リデナク、海難ヲ非常ニ減少スル事ガ出來ル。依ツテ本臺デハ本邦、支那、朝鮮等ニ於ケル測候所ノ中二十個所ノ午前六時、正午、午後六時ノ三回ノ氣壓、風向、風力、天氣ノ實況ト、高低氣壓ノ位置、示度、進行方向ヲ、當臺內ノ無線電信設備ニヨツテ航海中ノ船舶ニ向ヒ放送シテ居ル。

又暴風雨ノ虞アル時ハ暴風警報ヲ航行中ノ船舶ニ隨時放送シテ居ル。

氣象無線報ニ關スル規程ハ別ニ印刷シテ各船舶ニ

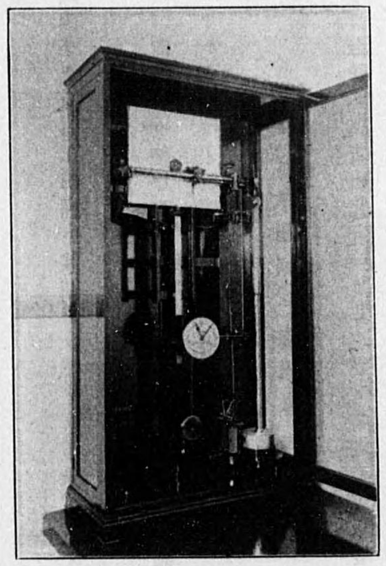
配布シテ居ル。

本臺ノ無線電信設備ハ構內ニアツテ、以前ハ七「キロワツト」ノ電弧式ヲ用ヒテ居タガ、最近其レヲ豫備裝置トシ、新ニ七「キロワツト」ノ「ヴルヴ」式ヲ設ケ、之レヲ常用スル樣ニナツテ非常ニ能率ガ善クナツタ。

本臺ガ氣象無線報ヲ始メタノハ大正十一年十二月カラデアルガ、其ノ後東京ノ中央氣象臺ハ大正十四年二月カラ、朝鮮ノ仁川觀測所ハ大正十四年五月カラ、大連觀測所ハ昭和四年九月カラ、中央氣象臺沖繩支臺(當時沖繩測候所)ハ昭和五年七月カラ、各氣象實況報ヲ放送スル樣ニナリ其ノ外臺灣デモ樺太デモ氣象無線報ヲ出シテ居ルカラ、今日デハ航行中ノ船舶ハ非常ナ便益ヲ得ル樣ニナツタ。

(四) 氣象觀測

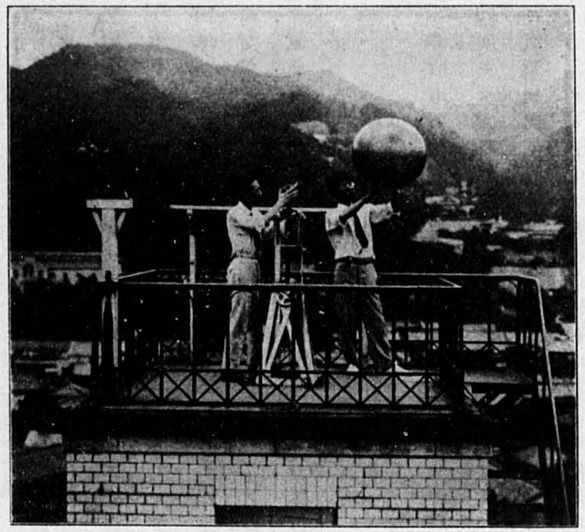
神戸市ノ一般氣象觀測ハ既ニ從前ヨリ神戸測候所ニテ定時ニ施行シテ居ルノデ、本臺ニテハ單ニ氣壓、風向、風速等ヲ主眼トシテ觀測シ、測器ニハ自記器械ヲ用ヒテ居ル。氣壓ニハ主トシテ「スプルング」式自記水銀晴雨計ヲ用ヒ補助トシテ「リシヤール」式自記空盒晴雨計ヲモ用ヒテ居ル。風向風速ニハ「フース」式「アネモグラフ」及「リシヤール」式



スプルング式自記水銀晴雨計

「アネモシネモグラフ」ヲ用ヒテ居ル。

又毎日天候ノ許ス限リ測風氣球ヲ揚ゲテ氣流觀測ヲナシ毎年四回ニ其結果ヲ纒メテ印刷配布シテ居ル。



氣流觀測

尙臨時ニ神戸測候所ト共同シテ特別氣象觀測ヲナシ氣象學ノ研究ニ資シテ居ル。

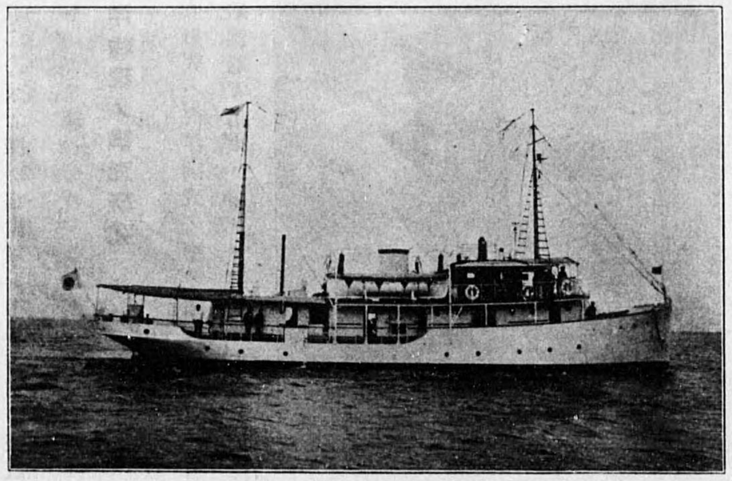
(五) 海洋觀測船「春風丸」

海洋ノ調査研究ニハ是非專屬ノ觀測船ガ必要デアル。其ノ爲メニ建造サレタノガコノ「春風丸」デアル。春風丸ハ神戸ノ三菱造船所ニヨツテ設計サレ昭和二年三月ニ建造サレタ。船ノ構造ニ關スル要點ハ次ノ通リデアル。

船質	鋼
總噸數	一二四噸六
長	九〇呎
資格	第二級船
航路定限	近海航路第一區
主機關	M・A・N社ディーゼルエンヂン「型G6Vu30」一五〇馬力
速力	九節
航續力	約三〇〇〇海里

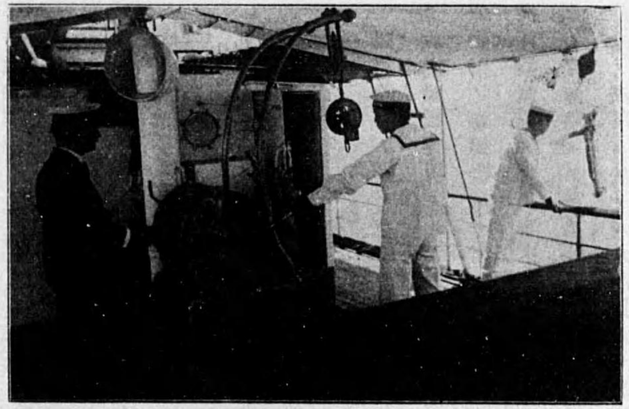
建造以來六年ニシテ既ニ航程三萬五千浬ニ達シ內地各港灣、瀨戸內海ヲ初メ日本海及西南諸島等ノ海洋觀測ニ從事シタ。

觀測設備トシテハ、船橋屋上ニ風力計、雨量計、蒸發計等ヲ設ケ、船橋甲板ニハ氣象觀測用ノ百葉箱ヲ置キ尙海洋觀測用ノ卷揚器械一臺ガ据ヘ付ケテアル。上甲板ニハ海洋觀測用ノ卷揚器械四臺据ヘ付ケテアルガ其ノ中一臺ハ深海用ニテ電動裝置ヲ有シテ居リ、優ニ深サ三〇〇〇米ノ深所ニ於ケル水溫、比重ヤ海流等ヲ測ル事ガ出來ル。下甲板ニハ化學實驗室ヤ觀測用ノ工作室ガ設ケテアル。



「春風丸」船觀測洋海

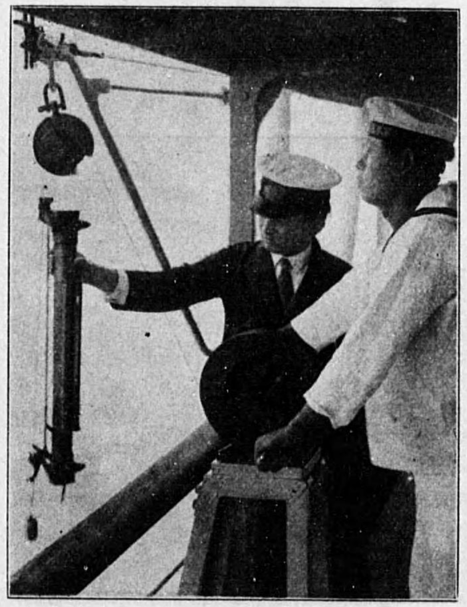
尙上甲板船首ニハ普通ノ錨ノ卷揚器械ノ外ニ觀測ノ爲五〇〇米ノ深サ迄投錨シ得ル特別ノ裝置ヲ備ヘテ居ル。



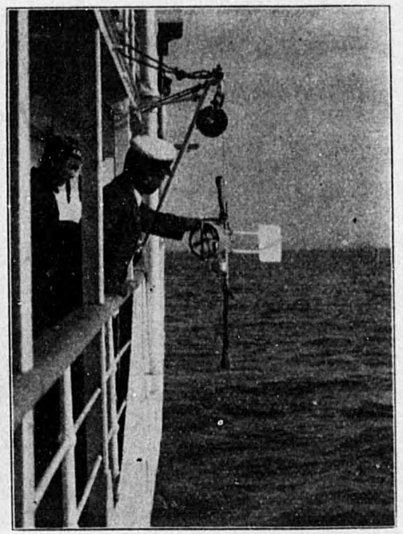
深海用電働卷揚機

(六) 海洋物理ノ調査研究

海洋物理ノ調査研究ハ海洋調査ノ中ノ尤モ主要ナル項目デアル。專屬ノ觀測船ガ出來ル前デモ臨時ニ大阪灣ヤ琵琶湖ノ觀測調査ヲシタガ觀測船ガ出來テカラ正規ノ



ナンゼン型採水器



エクマン式流速計

重計ハ「ナンゼン」全潛式及赤沼式ヲ、採水器ハ「ナンゼン」型顚倒式ヲ、流速計ニハ「エクマン」式ヲ用ヒテ居ル。ソレ等ノ或ルモノハ本臺デ製作自給シテ居ル。

コノ外沿岸各測候所デ觀測シタ水溫ヤ比重ハ取纒メテ、矢張リ海洋時報ニ載セテ居ル。

(七) 海洋化學浮游生物ノ調査

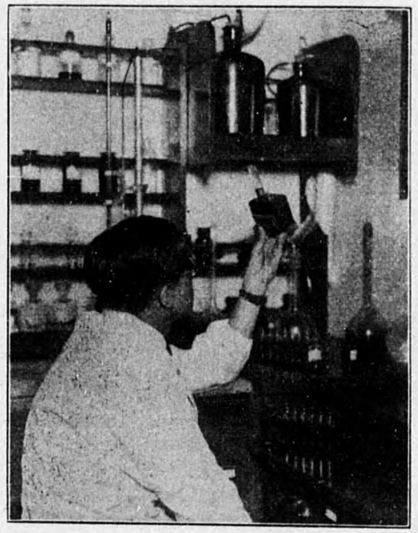
海洋化學及浮游生物ノ調査研究ハ啻ニ水產漁撈ノ業ニ直接深キ關係ヲ有ツ計リデナク、又海洋物理ノ研究上忽ニスベカラザル項目デアル。依ツテ海水ノ鹽分ハ勿論海水中ニ溶解シテヲル酸素、窒素、化事業トシテ海洋調査ヲ行フテ居ル。

觀測項目ハ海水ノ溫度、密度、鹽分、海流、潮流、海深、底質其ノ他多數ノ項目ニ涉ツテ居テ、海洋化學ヤ浮游生物ノ調査等ト相俟チ、港灣海洋ノ諸般ノ性質ヲ調ベル。其ノ結果ヲ「海洋時報」トシテ年ニ約四回印刷發行シテ、航海、水產其ノ他實業方面ノ便益ニ資スルト共ニ、海洋學ノ研究資料トモシテ居ル。

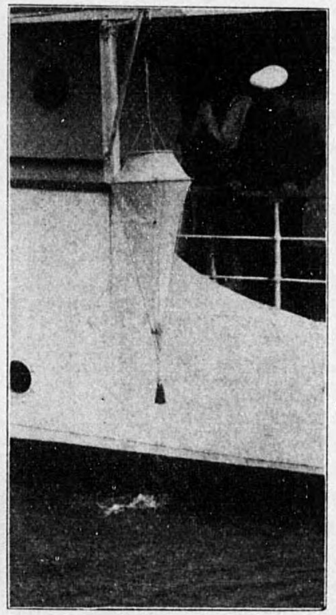
觀測器械ノ中寒暖計ハ獨乙「リヒター」社製ヲ、比

合物、硫化水素、水素イオン濃度、燐、硅酸鹽、有機物等各種ノ化學的成分及浮游生物ノ調査研究ヲシテ居ル。

之等ノ或ル物ハ觀測船「春風丸」ノ船上ニテ直チニ分析調査ヲスル計リデナク、海水ヲ硝子瓶中ニ採集シテ之レヲ密封シ、本臺ニ持チ歸リテ徐ニ調査ヲ遂ゲ、其ノ成績ヲ「海洋時報」デ發表シテ居ル。



春風丸實驗室



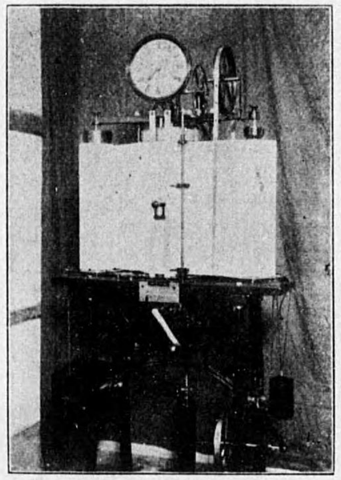
浮游生物採水網

(八) 潮汐ノ觀測

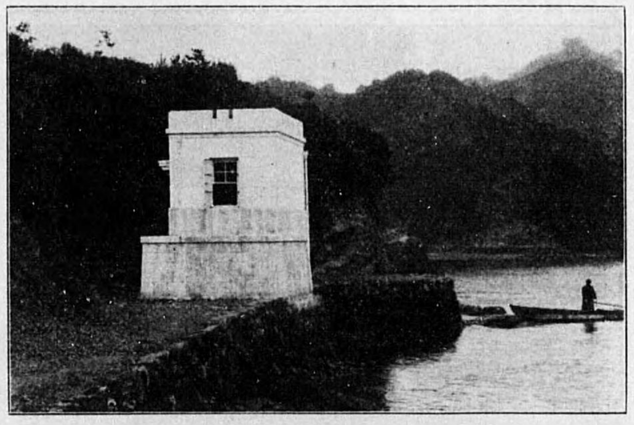
本邦各地ノ潮汐ノ觀測及調査ヲスル爲メニ、左ノ各地ニ附屬檢潮所ヲ設ケテ不斷觀測ヲシテ居ル。

一、北海道　花咲　ケルビン式
二、宮城縣　鮎川　リシャール式
三、三重縣　鳥羽　ケルビン式
四、和歌山縣　串本　ケルビン式
五、臺灣　基隆　ケルビン式
六、長崎縣　深堀　ケルビン式
七、島根縣　外浦　ケルビン式
八、鳥取縣　境　リシャール式
九、青森縣　岩崎　ケルビン式

其ノ觀測ノ結果及他ノ檢潮所ノ觀測ノ結果モ蒐集シテ、毎年三回ニ分チ「潮汐觀測」トシテ印刷公表シテ居ル。



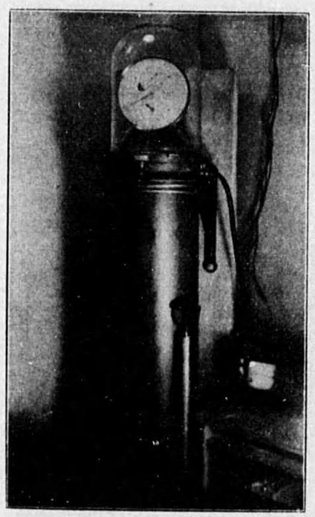
ケルビン式驗潮儀



鳥羽檢潮所

(九)「クロノメートル」ノ檢定

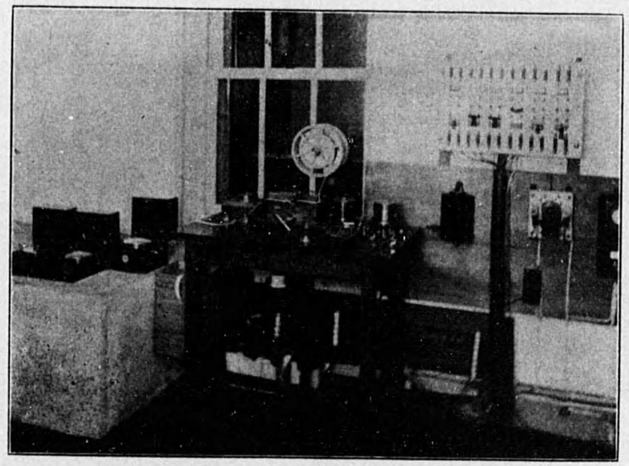
船用「クロノメートル」ノ檢定ハ依賴ヲ受ケテ行ツテ居ル。標準時計トシテハ獨乙「ミュンヘン」市ノ「リーフラー」時計師ガ一九二〇年ニ製作シタ標準時計三九二號ヲ使用シテ居ル。尤モ之ハ溫度ノ變化ノ少イ地下室ノ奥ニ据付ケ、之レト連絡スル副時計ヲ主トシテ使用シテ居ル。「クロノメートル」ノ檢定ニハ「クロノグラフ」ヲ使用シテ一秒ノ百分ノ一迄讀ミ取ツテ比較シテ居ル。



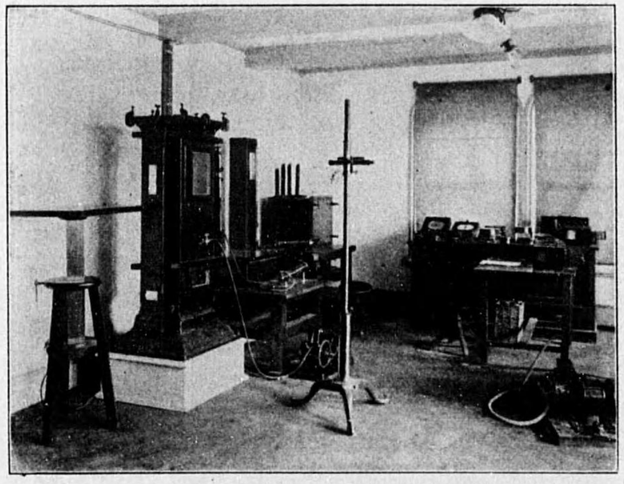
「リーフラー」標準時計

標準時計ノ正時ヲ保持スルニハ後述ノ天體觀測ニヨル外、世界各國ノ標準時モ無線電信デ受ケテ參照シテ居ル。

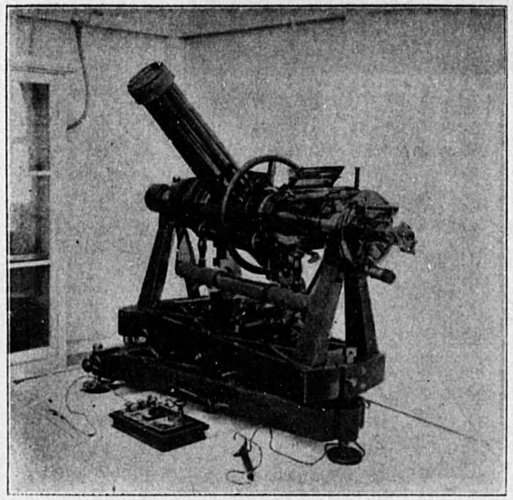
尚本臺構内カラハ强力ナ無線電波ガ放送サレルカラ電波ノ影響ヲ防グ爲ニ、標準時計ハ地下室ノ中ニ更ニ厚三吋ノ鐵ノ部屋ヲ作ツテ其ノ中ニ据ヘ付ケ、副時計ヤ保管中ノ「クロノメートル」ハ全部厚サ一吋ノ鐵ノ箱ノ中ニ格納シテアル。



クロノメーター檢定室



晴雨計檢定室



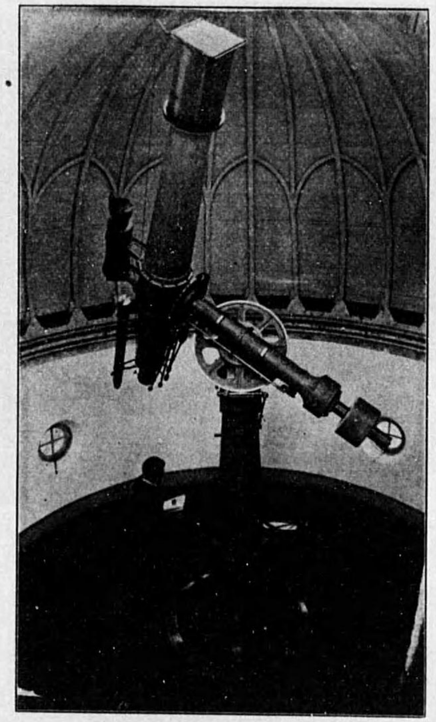
バンベルヒ型子午儀

(ロ) 氣象測器ノ檢定

寒暖計、濕度計、風力計及其レ等ノ自記器械等ノ一般氣象器械モ依賴ニヨツテ檢定ヲシテ居ルガ其ノ最モ多ク取扱ツテ居ルノハ矢張リ船舶用ノ空盒晴雨計デアル。測器ハ檢定計リデナク依賴ニヨツテ調整ヲモ行フ。

其ノ外ニ邦船ノ大部分ガ日々ノ觀測ニ用ヒテ居ル空盒晴雨計ハ、鋭敏デ且ツ取扱ヒモ簡單デアルカラ、船舶ニハ適シテ居ルガ狂ヒ易イ缺點モアルノデ、一週間ニ數回臺員ヲ神戸港碇泊中ノ船舶ニ派遣シテ直接ソノ誤差ヲ正シテ居ル。

以上ノ外ノ種々ノ航用測器ノ檢定事務モ目下計畫中デアルカラ、孰レ近キ將來ニ於テ實現シ得ラルヽデアラウ。



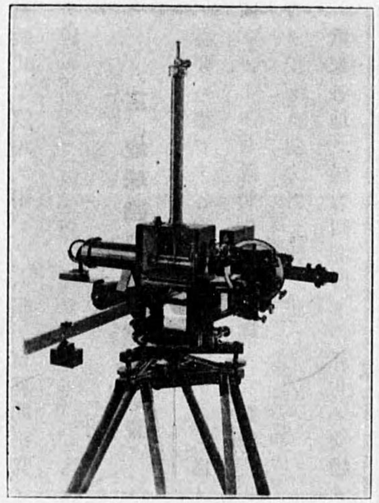
十吋赤道儀

(二) 天體ノ觀測

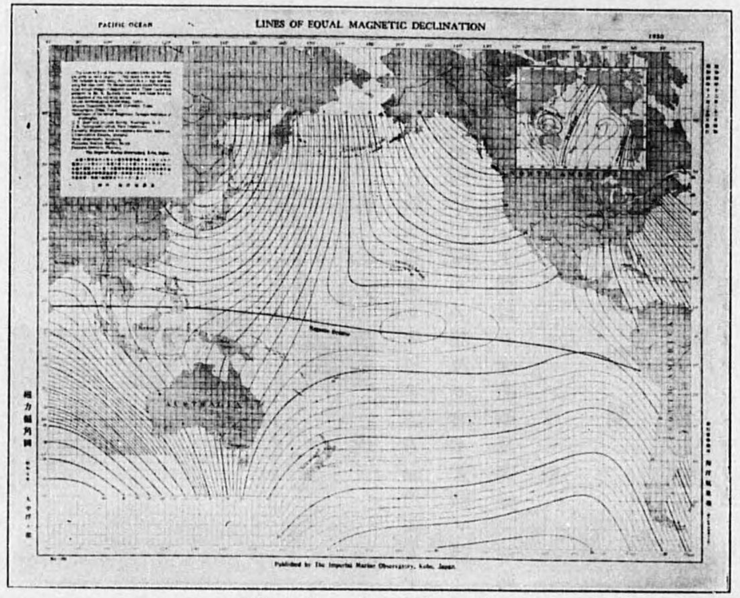
「クロノメートル」ヤ時計ノ檢定ニハ正確ノ時刻ヲ測定スル必要ガアルカラ、時刻ノ測定モ亦本臺ノ重要ナル仕事ノ一ツデアル。

觀測用ノ子午儀ハ獨乙「バンベルヒ」製デ、天候ノ許ス限リ觀測ヲシテ居ル。

又太陽面ノ變化ハ吾地球上ニ諸種ノ影響ヲ及ボス、殊ニ氣象ヤ磁力ノ上ニハ直接ニ影響ガアルノデ、神戸測候所ト共同シテ十吋及五吋赤



磁力計



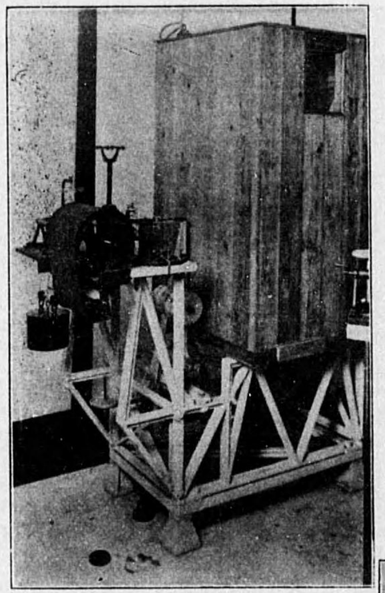
磁力偏角圖

道儀式望遠鏡ヲ用ヒテ太陽ノ寫眞的研究ヲシテ居ル。

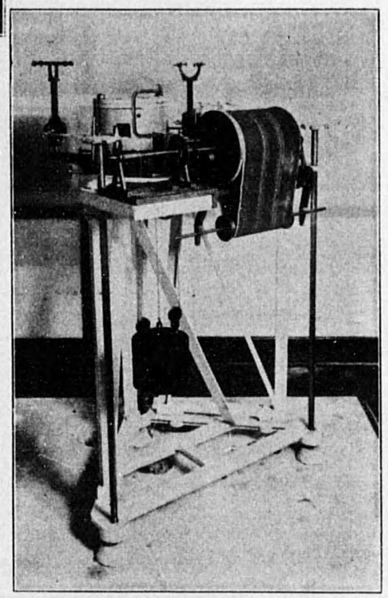
(三) 地球磁力ノ觀測及調査

必要ニ應ジテ各地ノ磁力測定ヲスル爲メ英國ノ「クーク」會社製作ニテ同國「キウ」觀測所ノ檢査ヲ受ケタ磁力計一組ヲ供ヘテ居ル。

歐米各地ノ磁力觀測所トハ報告ノ交換ヲナシ弘ク資料ヲ蒐集シテ、毎年磁力偏角圖(太平洋ノ部、太西洋印度洋ノ部及ビ日本近海ノ部)ヲ製作シ、毎年之レヲ刊行シテ船舶及關係アル向キニ配布シテ居ル。



ヴキーヘルト上下動微動計



ヴキーヘルト式水平動微動計

(三) 地動觀測

神戸測候所ト共同シテ地動ノ觀測ヲ行ツテ居ル。地震計ハ獨乙「スピンドラーホイヤー」會社製ノ「ヴキーヘルト」式水平動及上下動微動計ヲ用ヒ、ソノ觀測結果ハ矢張リ測候所ト共同シテ年數回ニ分チテ之レヲ報告發表シテ居ル。

五、海洋氣象臺職員

(昭和八年十月一日)

				就職年月
臺長	中央氣象臺長兼	正四位勳二等	理學博士	岡田武松	大正九年八月
技師	中央氣象臺勤務兼	正五位勳四等	理學博士	藤原咲平	昭和五年六月
		正五位勳五等	理學博士	堀口由己	大正九年八月
	中央氣象臺勤務兼	從五位勳六等	理學博士	關口鯉吉	大正九年八月
		從五位勳六等		佃十吉	大正九年八月
書記		從六位		岡田群司	昭和二年三月
		從六位	理學博士	日高孝次	昭和二年三月
		正七位		肥沼寛一	昭和七年十二月
				垣内太二郎	昭和三年四月

技手

春風丸船長　村田丑彦　昭和二年三月
岡田善太郎　大正九年九月
清水要　大正十二年六月
進藤恒二　大正十三年四月
川崎英男　大正十四年九月
松平康雄　昭和四年一月
一木茂　大正十年五月
水内松一　大正十年五月
棚嘉市　大正十年十月
久保時夫　昭和三年三月
中山英夫　昭和三年三月
田口龍雄　大正十二年七月
住田多三郎　昭和七年七月
石井正語　大正十三年六月
西間木久衛　昭和七年九月

囑託

春風丸機關長　津秋仁作　昭和二年三月
從七位勳八等　吉川泰三　大正九年八月
從七位勳八等　中野一馬　大正九年八月
正八位　海軍豫備少尉　柳澤忠實　昭和八年七月
正八位　海軍豫備少尉　安井善一　昭和三年五月
正八位　海軍豫備少尉　内山隆　昭和八年一月
境檢潮所囑託　川上宣孝　昭和三年四月
岩崎檢潮所囑託　堀内和三郎　昭和八年五月
鮎川檢潮所囑託　岡田宜太郎　昭和八年三月
深堀檢潮所囑託　副島敬治　大正十四年五月
串本檢潮所囑託　山口三重郎　昭和六年八月
鳥羽檢潮所囑託　谷口甚三郎　大正十三年五月
外ノ浦檢潮所囑託　眞島善雄　昭和七年三月
花咲檢潮所囑託　清水博　昭和八年六月
基隆檢潮所囑託　齋藤幸吉　大正十四年二月

春風丸一等運轉士　陣山高德　昭和二年三月
春風丸一等機關士　川崎春之　大正十年五月
中村伴藏　大正九年十一月
稻葉秀雄　大正十二年四月
主代代之助　大正十三年六月
山北稔　大正十一年八月
中島善吉　昭和二年三月
清原吉次郎　昭和六年五月
大口八郎　大正十二年六月
加藤威夫　昭和七年十二月
曾川育二　昭和四年四月
水田まさゐ　大正十四年三月
福本平夫　大正十三年十月
稻葉輝夫　大正十五年五月
飯田勝義　大正十五年八月

六、刊行物

本臺デハ上述ノ通リ各般ノ項目ニ渉リ觀測調査研究ヲシテ居ルガ、今迄ニ其ノ結果ヲ印刷公表シタルモノヲ此處ニ列擧スル。

定期刊行物　昭和八年十月調

一、日刊天氣圖　大正九年以降
二、週間天氣圖　大正十年及十一年(北太平洋天氣圖刊行後廢止)
三、月刊北太平洋天氣圖　大正十二年以降

清原喜太郎　昭和三年四月
高田久惠　昭和五年九月
山口アサヱ　昭和六年五月
井戸邊すみよ　昭和七年十月
岡本喜美子　昭和八年三月
松野郁子　昭和八年三月
安藤伴子　昭和八年八月

四、磁力偏角圖　大正十年分以降
五、海洋氣象月報　大正十一年ヨリ十四年迄(海洋氣象年報刊行後廢止)
六、海洋氣象年報　大正十五年以降
七、海洋氣象五年報　明治四十四年――大正四年分以降
八、潮汐觀測(年三回)　大正十四年以降
九、上層氣流觀測(年四回)　大正十四年以降
一〇、地動觀測(年四回)　大正十二年以降
一一、北太平洋の氣象(月刊)　昭和七年一月分以降
一二、海洋時報　昭和四年以降(コノ以前ノ分ハ海洋氣象臺彙報ニ在リ)

第一卷第一號　主要項目　紀伊水道海洋觀測報告(一)
第一卷第二號　同　紀伊水道海洋觀測報告(二)
第一卷第三號　同　大阪灣第二次海洋觀測報告
第二卷第一號　同　日本海南部海洋觀測報告(一)
第二卷第二號　同　日本海南部海洋觀測報告(二)
第二卷第三號　同　瀨戸內海海洋調査觀測報告(一)
第二卷第四號　同　瀨戸內海海洋調査觀測報告(二)
第三卷第一號　主要項目　東京灣海洋觀測調査報告　中海海洋觀測調査報告
第三卷第二號　同　第二回日本海南部海洋觀測調査報告(一)
第三卷第三號　同　第二回日本海南部海洋觀測調査報告(二)
第四卷第一號　同　第三回日本海主要部海洋觀測調査報告
第四卷第二號　同　津輕海峽海洋觀測調査報告　神戸港內外の潮汐流觀測報告
第五卷第一號　同　伊勢海、三河灣海洋觀測報告　大阪港灣內外潮流觀測報告

不定期刊行物　昭和八年十月調

一三、海洋氣象觀測法　大正十年四月發行　昭和六年九月改訂第三版發行
一四、雲級圖　大正十一年三月發行
一五、颱風の話(岡田武松述)　大正十三年七月發行
一六、海洋氣象臺彙報

第一號　橫濱室蘭間海洋觀測……須田皖次
第二號　沖繩颱風の研究……堀口由己
第三號　一、太陽黑點、白斑、絨羊斑の運動……關口鯉吉　田龍雄
　　二、双黑點に據る太陽自轉……關口鯉吉　田龍雄
第四號　颱風系內の溫度分布……堀口由己
第五號　氣候の循環期に就て……關口鯉吉　田龍雄
第六號　大阪灣海洋觀測報告……須田皖次　水內松一
第七號　一、彈性體に生ずる二種の波動……須田皖次
　　二、震源、集合震源、直線震源及斷層震源……須田皖次
第八號　琵琶湖調査報告　第一篇……關田皖次　石和男　高井久郎　谷靜馬　水內松一
第九號　一、颱風系內の風の分布……堀口由己
　　二、颱風系內の氣壓分布及颱風の移動との關係……堀口由己
第一〇號　一、輕石の漂流に就て……關和男
　　二、無線電磁波に依る障碍防禦裝置の効果に就て……中野一馬
第一一號　一、氣溫に及ぼす太陽活動の直接作用の檢出……關口鯉吉　田龍雄
　　二、無線電信號可聽度と氣象狀態の關係に就ての統計……須田皖次　關口鯉吉　新原哲太郎
第一二號　海上の風……堀口由己　高山四郎
第一三號　一、日本近海に於ける海流に關する實驗……高孝次
　　二、琵琶湖の表面流に關する實驗……高孝次
第一四號　一、檢潮井戸の導管の摩擦の影響に就て……關口鯉吉　川崎英男
　　二、檢潮井戸の導管の摩擦に關係する風浪の影響の實地調査……川崎英男

	Y. Horiguti:	On the Typhoon of the Far East. Part IV.
	Y. Horiguti:	On the Typhoon of the Far East. Part V.
No. 4.	**K. Hidaka:**	Tidal harmonic constants at several ports in Japan.
	S. Takaya:	On the barometric oscillations in a cyclone.

VOL. IV.

No. 1.	**S. Takaya:**	On the Coefficient of eddy viscosity in the lower atmosphere.
	K. Hidaka:	On the Corrections to the Depth obtained by the Warluzel Sounding Machine.
No. 2.	**K. Hidaka:**	On Mixing of Warm and Cold Saturated Air. Parl I.
	K. Tsukuda:	The Mean Cloudiness in the Far East.
	K. Hidaka:	The Oscillations of Water in Spindle-shaped and Elliptic Basins as well as the Associated Problems.
	H. Kurasige:	On a New Species of Copepoda, Calanus syunpuensis, from the Bay of Tokyo.
No. 3.	**K. Hidaka:**	Sur l'Intégration de l'Equation de Chrystal pour les Seiches des deux Lacs Écossais, Earn et Treig.
	K. Hidaka:	On the Angle between the Wind and the Drift Current.
No. 4.	**K. Hidaka:**	The Free Oscillations of Water in a Canal of Spindle-shaped Plan.
	K. Hidaka:	Tidal Motion in a Flat Rotating Circular Sea Uniformly Shelving from the Centre to the Edge.
	H. Arakawa:	The Conduction of Heat in Ocean Currents.

VOL. V.

No. 1.	**Y. Horiguti:**	Energy due to the Distribution of Pressure in the Area of Typhoon.
	K. Hidaka:	Ueber eime neue Korrektionsformel zur Umkippthermometerablesung.
	K. Hidaka:	Tidal Oscillation in a Rectangular Basin of Variable Depth.
	Y. Horiguti:	Note on the Distribution and the Motion of the Clouds of the Area of Typhoon.
	K. Hidaka:	Explication Théorique des Seiches dans la Baie d'Ôsaka.
No. 2.	**K. Hidaka:**	Anwendung der Stokes'schen Methode auf die Theorie der winderzeugten Meeresströmungen.
	K. Hidaka:	Tidal Oscillations in a Circular Basin with an Elevation or a Depression at its Centre.
	H. Arakawa:	Oscillations of Water in Spindle-shaped and Elliptical Basin.
	T. Sano:	On the Lag of the Marine Barometer.
No. 3.	**K. Hidaka:**	A Mathematical Investigation on the Development of Wind Currents in Heterogeneous Waters.
	K. Hidaka:	Non-Stationary Ocean-Currents.

The Memories of the Imperial Marine Observatory

VOL. I.

No. 1.	**R. Sekiguti:**	On the tilting of the earth at Jinsen (Chemulpo) due to the tidal load.
	T. Okada:	On the possibility of forecasting the summer temperature and approximate yield of ricecrop for northern Japan (Second paper)
	T. Okada:	On the eye of the storm.
No. 2.	**Y. Horiguti:**	On the rate of ascent of rubber balloons.
	K. Suda:	On the energy distribution of the main waves of a near earthquake.
	T. Okada:	On the surface temperature of the Japan Sea.
No. 3.	**R. Sekiguti:**	An attempt to determine the meridional component of the general current in the Sun's reversing layer by a spectroscopic method.
	D. Nukiyama:	On the theory of monsoon-rain in the Far East.
	N. Kawakami:	The secondary undulation of the oceanic tides in the Bay of Miho.
No. 4.	**K. Suda:**	On the great Japanese earthquake of September 1st, 1923.

VOL. II.

No. 1.	**R. Sekiguti, K. Taguti and T. Taguti:**	On the characterization of Winter.
	Y. Horiguti:	Life history of the Typhoon on the end of March, 1923.
	R. Sekiguti, S. Itiki and T. Taguti:	A note on the proper motion of sun spots.
	N. Kawakami:	On the upheaval and subsidence of land in some districts of Japan.
No. 2.	**R. Sekiguti:**	A note on the characteristic movements of spots, faculae and flocculi of the sun.
No. 3.	**Y. Horiguti:**	On the Typhoon of the Far East. Part I.
No. 4.	**K. Tsukuda:**	On the mean atmospheric pressure, cloudiness and sea surface temperature of the North Pacific Ocean.

VOL. III.

No. 1.	**R. Sekiguti:**	An attempt to detect a direct effect of the solar activity on the air temperature at some stations in the central part of Japan.
No. 2.	**Y. Horiguti:**	On the Typhoon of the Far East. Part II.
	Y. Yakuwa:	On the heat exchanges in the water of Lake Biwa and in the soil of the shore.
No. 3.	**R. Yakuwa:**	Über die Bodentemperatur von Kobe.
	Y. Horiguti:	On the Typhoon of the Far East. Part III.

七、海洋氣象臺及附屬檢潮所ノ名稱及位置

名稱	位置
海洋氣象臺	神戸市神戸區中山手通七丁目
附屬花咲檢潮所	北海道根室郡根室町字花咲
附屬鮎川檢潮所	宮城縣牡鹿郡鮎川村
附屬鳥羽檢潮所	三重縣志摩郡鳥羽町
附屬串本檢潮所	和歌山縣西牟婁郡串本町
附屬基隆檢潮所	臺灣臺北州基隆市
附屬深堀檢潮所	長崎縣西彼杵郡深堀村
附屬外ノ浦檢潮所	島根縣那賀郡濱田町大字淺井字外ノ浦
附屬境檢潮所	鳥取縣西伯郡境町
附屬岩崎檢潮所	青森縣西津輕郡岩崎村

八、敷地建物坪數及船舶噸數

（昭和八年十月一日現在）

一、敷地　總坪數　三、六七七坪七二三

區分	內譯	坪數
本臺敷地		三、一九四、五五三坪
官舍敷地		三六七、六〇〇
附屬鳥羽檢潮所敷地		八五、五八〇
附屬境檢潮所敷地		二九、九九〇

二、建物　總坪數　五八〇坪〇五

名稱	內譯	構造	坪數
本館		煉瓦造三階建風力計臺付	一一〇、四〇坪
無線電信所		煉瓦及鐵筋コークリート造三階建一部四階付	五〇、二五
子午儀室		木造平家建屋根移動式	七、〇〇

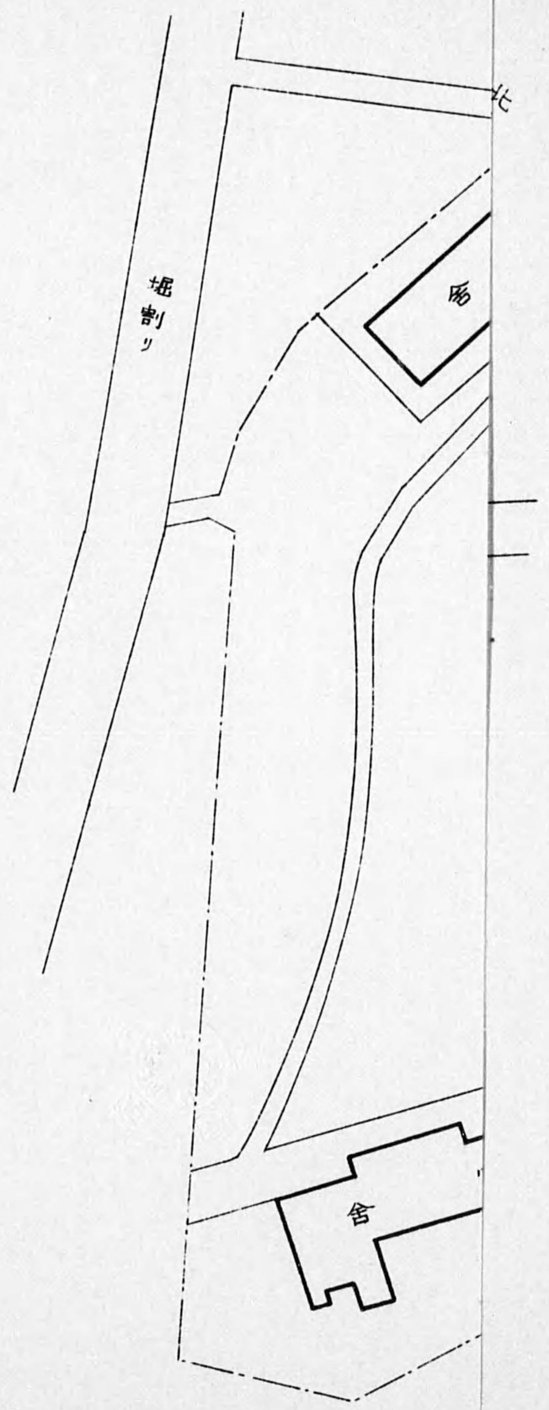
羅針盤檢定室	木造平家建	七、五〇
電池室	同	二〇、〇〇
職工室	同	一四、六〇
渡廊下	木造及鐵筋コンクリート造	一一、五〇
小使室	木造平家建	一四、七五
門衛所	同	一、五〇
物置	同	一五、〇〇
金工木工工場	同	二二、二五
鞴場	鐵筋コンクリート造平家建	一、八〇
印刷工場	本造平家建	一五、〇〇
書庫	鐵筋コンクリート造二階建一部地階付	二〇、〇〇
官舎	木造二階建三棟六戸	一八〇、八〇
同	鐵筋コンクリート造一棟六戸	六〇、五四
附屬鳥羽檢潮所	鐵筋コンクリート造平家建	三、七五
同風力計所	木造平家建	一、五〇
附屬境檢潮所	鐵筋コンクリート造平家建	三、〇〇

同物置	木造平家建	三、〇〇
附屬鮎川檢潮所	煉瓦造コンクリート塗平家建	二、五四
附屬串本檢潮所	石造平家建	二、二〇
附屬深堀檢潮所	煉瓦造平家建	二、二〇
附屬外ノ浦檢潮所	同	二、四九
附屬岩崎檢潮所	同	二、七四
附屬花咲檢潮所	石造平家建	二、二〇
附屬基隆檢潮所	コンクリート造平家建	一、五四

三、船舶　總噸數　一二九噸五八

内譯

汽船春風丸	鋼製、ディゼル機關、長九〇呎 幅一八呎	登簿噸數　三二噸五五	總噸數　一二四噸五八
自動艇海洋丸	木造、瓦斯倫發動機、長三〇呎 幅六呎五吋	總噸數　五噸	

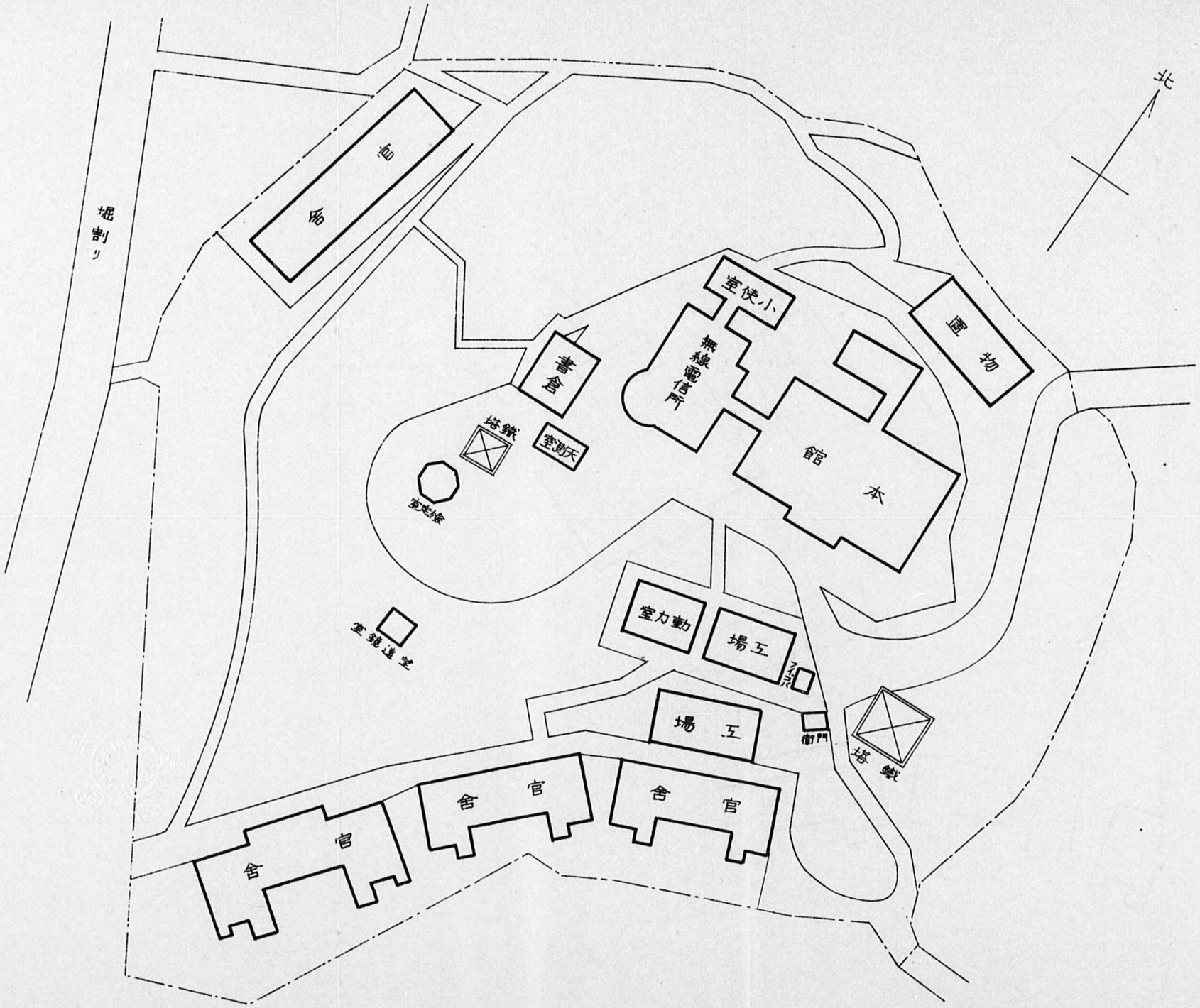


海洋氣象臺　平面圖

縮尺六百分ノ一

海洋氣象臺　平面圖

縮尺六百分ノ一



昭和八年十一月十八日印刷
昭和八年十一月二十二日發行

海洋氣象臺

神戸市神戸區江戸町一〇二
印刷者　田中守一

神戸市神戸區江戸町一〇二
印刷所　田中印刷出版株式會社

終